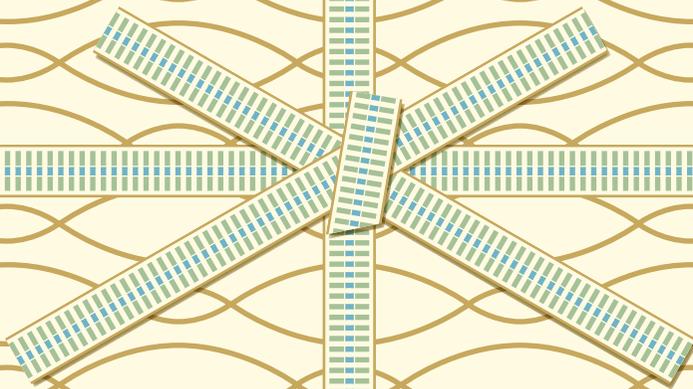


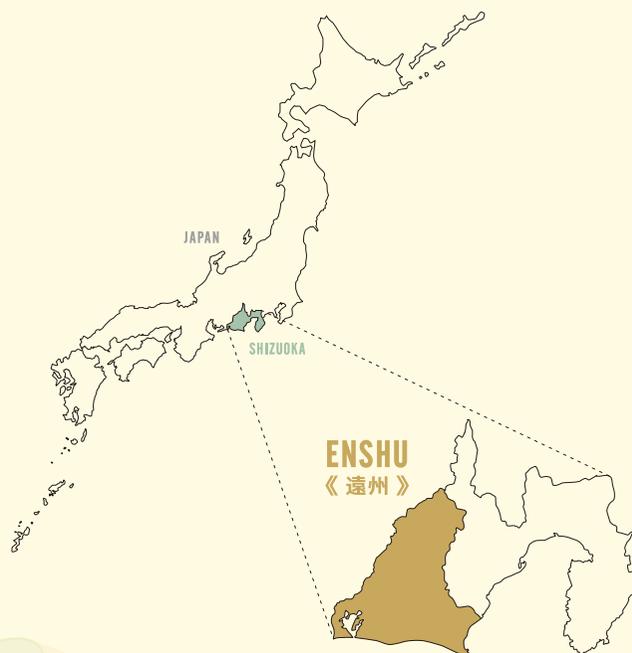
遠州

遠州
ENSU SANCHI

— 細幅のこと —



WHAT IS ENSHU ?



静岡県の西部(かつての遠江国)

遠州と呼ばれる静岡県西部は、独特の風合いが国内外から高く評価される遠州織物を手がける織物の産地。織りだけでなく、撚糸、経通し、整経といった準備工程、染色、整理加工など、それぞれの工程に優れた技術力を持つ分業制をとっているのも特徴の一つです。織物の種類も多彩で、おもに洋服地に使われる「広幅」、和服地の「小幅」。さらに、テープやひもなどの「細幅」も遠州産地で織られています。車のシートベルトや工事現場で資材をつるベルトなど、産業資材のイメージが強い細幅ですが、かばんの持ち手、ラッピング用のひも、本のしおりなど、意外と私たちの暮らしのそばで使われる存在でもあります。「細幅」のことを知れば、きっとあなたも遠州産地マニアになれるはず。

CONTENTS



- 02 細幅とは？
- 04 生産工程
“MADE IN ENSHU” 細幅織物ができるまで
- 06 素材の博士 / 知れば細幅通な用語集
- 07 細幅の用途
細幅織物をさがせ！
- 08 細幅の用途
細幅のある暮らし
- 11 暮らしがときめく！
細幅織物で作る“簡単DIYレシピ”

COMPANY PROFILE

- 12 ① 川口細巾織物株式会社
- 16 ② 丸啓細巾工業有限会社
- 20 ③ 大東テープ工業株式会社
- 24 ④ 株式会社第一天龍
- 28 ⑤ 平織産業株式会社
- 32 ⑥ 丸忠細巾織物工場
- 36 ⑦ 本橋テープ株式会社
- 40 ⑧ 新日本繊維機器販売株式会社
- 44 ⑨ 株式会社白井繊維工業社
- 48 ⑩ 東陽機業株式会社
- 52 ⑪ 新興細巾織物株式会社

56 静岡県繊維資材工業組合名簿

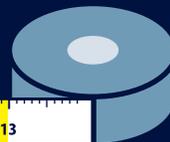
細幅織物



戦前、ゲートルや物をしぼるひもなど、身近な生活用品の織物として生まれた細幅織物。織機も小さく、農家や漁師の妻が内職として家で手軽に始められたのも、遠州が細幅織物の産地になった理由の一つ。手がけるものは、広幅織物と小幅織物以外の全部といえるほど、バリエーション豊か。天然繊維から化学繊維まで取り扱い、生活用品や産業資材だけでなく、医療や宇宙など、さらに広がりを見せています。

■ 織物の幅

実寸幅だよ!



細幅織物

13



幅: ~13cm

テープ、ひも、シートベルトなどの産業用資材。
ファッション小物の材料など。

でも、13cm以上も
あったりするんだよね!!



● 小幅織物：～51cm

● 広幅織物：51cm～
(110cm～145cmが中心)

語り継がれる、遠州産地の細幅織物

遠州地方で棉の栽培が始まったのは江戸時代中期と言われてます。江戸末期には、浜松藩主である井上正春・正直親子が、糸作りから手織り織機による布作りまでを奨励。1884(明治17)年には遠州最初の洋式紡績工場が設立され、綿織物が地場産業として発展しました。

「細幅織物」の生産が始まったのは、明治後期のこと。入野村、あるいは天神町村の周辺と言われ、海外から輸入した細幅織機を使い、主に畳べりを生産していました。それまでのひもに代わり、細幅で織られたテープやベルトは使い勝手が良く、衣料品や工業用資材、軍需品など、あらゆる産業を支えました。

戦後の高度成長期にあわせ発展を続けていた細幅織物でしたが、沖縄返還などの政治的背景もあり、衣料品やバッグ、インテリアなど、アメリカへの全ての繊維製品の輸出が事実上禁止に。日本政府による織機の買い上げもあり、廃業する工場も少なくありませんでした。一方で、省力化のためニードル織機を導入し、外需から内需へ転向する工場も現れ、多品種・小ロットに対応する細幅織物の原型が築かれたのもこの時代。

ここ10年で燃糸業や染色業などの廃業が増え、地場産業として持続することが難しくなってきました。

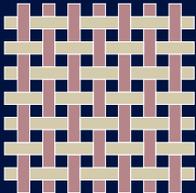
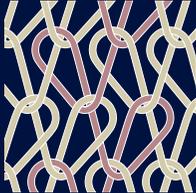
それでも、他産地と連携したり、織布の研究や技術開発をしたりと、さまざまな努力を続けた結果、スポーツ用品や建築資材、電気絶縁体、航空機部品など、幅広く展開。時代とともに柔軟に変化する細幅織物は、これから先もなくなることはありません。

(話：静岡県繊維資材工業組合 / 元副理事長 生田基行さん)



▲ 委託倉庫前でにぎわう蕪市場(鍛冶町交差点)
写真提供: 浜松委託倉庫株式会社

■ 作り方いろいろ

織物 (織るもの)	編物 (編むもの)	組物 (組むもの)
経糸と緯糸を交錯させたもの。 布帛(ふはく)。	ニット。一本の糸の輪(ループ)を連続してつくり、たて方向・よこ方向に連結する。	複数の糸を並べて、長さ方向に斜めに相互に交錯させたもの。
		
リボン、テープ、ベルトなど	フリンジ、服飾、かばんの飾りテープなど	丸ひも、平ひも、レースなど

TOPICS

「幅」と「長さ」 だけじゃない

日用品から何トンもの荷重に耐える物まで用途はさまざま。バンド、ベルト、テープ、リボンと、厚さによって呼び名が変わったり、品番でなく厚さと幅で注文したりと、細幅織物では「厚さ」も重要な要素なんです。

厚さ：バンド ≧ ベルト > テープ > リボン
例) PP(ポリプロピレン) 厚さ1.7mm × 幅30mm

果てしない、 ひも

組物に分類され、形状によって「平ひも」「丸ひも」「角ひも」に分けられます。打ちひもとも呼ばれ、江戸打ちや唐打ちなどがあります。歴史は古く、かつては手で組まれていましたが、今は製紐機(せいちゅうき)を使い、複雑な構造やデザインも可能。真田ひもは「ひも」ではなく、織物。ひものように伸縮性はないけれど、強くて丈夫。

細くて深い、細幅織物の不思議な世界

大きな愛で 包み込む

細幅織物のカテゴリーは広く、広幅と小幅以外全部と言えるほど。かつて雑品と呼ばれていたのも、さまざまな製品や用途の複雑さを受け入れるこの業界ならではの包容力の現れ。今は「静岡県繊維資材工業組合」として認知度向上に取り組んでいます。

細幅を支える 女性たち

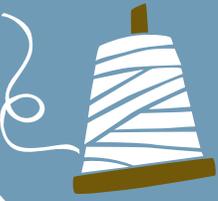
農業の閑散期や、漁に出た夫に変わり家を守る女性たちの副業として選ばれた細幅織物。理由は織機が小さく、作業小屋の隅で手軽にできたから。地縁や血縁によって人材やノウハウの交流が進み、業界は発展していったそう。男性と比べ女性は皮脂が少なく、生地を繊細に扱えるのも理由だとか。

MADE IN ENSHU

細幅織物ができるまで

※工程は一例です。

1



糸

短繊維・長繊維、天然繊維・化学繊維など、作るものにあわせて最適な糸をセレクト。糸から特殊なものを開発することも。

撚糸

糸に撚りを加える。
※糸をねじりあわせる。

糸染

糸の状態に染める。
原着糸も。

3 織る

経糸を開いた口（杼口）に緯糸を通し、箆打することで織物が織りあがる。

シャトル織機

緯糸をシャトル（杼）が往復しながら入れる。
細幅織物では、1台の織機に複数の口がある。

スピードは遅いが、糸に負荷が少ない。
完全に左右対称に織ることができ、昔ながらの優しい風合いが出せる。また、打ち込みが入るため、超厚地も織ることができる。



ニードル織機

緯糸をニードル（針）の先で引っ掛け往復する。
片側は耳があり、反対側は編み込まれる。

回転数が速く、高速での製織が可能。
最新式のものにはスマートフォンサイズの端末機で設定し、経糸（綜統）の動きや緯入れの速度なども制御可能。



細幅織物といえども、基本的な織り方の流れは広幅織物や小幅織物と同じ。細幅では、原料となる糸は、自ら購入し、在庫を抱えるのが一般的。天然繊維や化学繊維など、さまざまな特徴を持つ糸の中から、お客さんのニーズに最適な糸を厳選し、生地を織る。また、生地の加工やパーツの接合など、最終製品まで一括して請けることも少なくない。専門に特化した細幅織物工場が多いのには、そんな理由があるからかも。

織りやすさは
コで決まる!

2

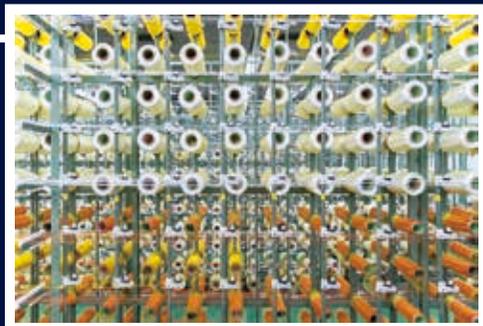
整経

経糸が織物の設計に合った長さとなるように、必要な本数と長さを揃えて一定の張力でビームに巻き取る。ニードル織機ではクリールから直接製織へ。

クリールに
糸が並ぶ風景は
圧巻!

簡単に見えて...
簡単じゃない!!

ただ巻いてる
だけじゃない!



4

染色・加工

糊付加工、染色、ヒートセット、
難燃加工など。

完成!

5

カット・縫製・アッセンブリ

超音波や熱などにより、形に合わせてカットや穴あけなどを行ったあと、製品にあわせて縫製や必要な部品とともに組み上げる。

素材の博士



遠州産地は、綿や麻といった天然繊維を中心とした織物の産地。

しかし、細幅織物は衣類の他に、産業資材や生活資材などのさまざまな用途に使われるため、

天然繊維だけでなく、化学繊維まで幅広く取り扱っています。

そのため、各工場の素材に対する知識は生半可ではなく、特徴を生かした豊富なノウハウがなによりの財産なのです。

名称	特徴
綿	綿の種子から取れる繊維。繊維の長さによって「短繊維綿」「中繊維綿」「長繊維綿」「超長繊維綿」に分けられ、シャツやタオルから、高級シャツまで様々な用途に使われる。丈夫で水分吸収率が高く、保温、耐熱、染色性に優れる。
レーヨン	高価な絹の代わりに木材パルプから人工的に作られた繊維。土に帰るため再生繊維とも呼ばれる。吸湿・放湿性が高く、美しい光沢と肌触りの良さが特徴。静電気が起きにくく、熱に強い。短繊維でスフ(ステープル・ファイバー)、長繊維で人絹とも呼ばれる。
混紡	繊維の性能を高め、欠点を補うために2種類以上の繊維を混ぜて紡ぐこと。絹とポリエステルなら吸水性に優れ、シワになりにくい生地ができる。他にもウールとアクリル、綿と麻とレーヨン混紡など様々な組み合わせがある。
アクリル	石油を主原料とし、ウールや綿、シルクなどと比べ比重が軽く、ふっくらとした感触と適度な保湿性がある。強度と耐光性に優れ、色彩性堅牢度が非常に良く、薬品や虫にも強い一方で、耐熱性や吸湿性は低い。
ポリプロピレン	融点が低く染色できないため、衣料用繊維ではなく、産業資材や生活資材などとして使われる。比重が軽く、水に浮く。弾性、柔軟性に優れ、摩擦に強いが、耐光性、吸水性に劣る。
ポリエステル	国内の合成繊維生産量の多くを占める。ナイロンに次ぐ強度を持ち、摩擦に強く、耐光性があるため、綿と混紡し、ワイシャツやユニフォームといった繰り返し洗濯をする生地として大量に利用される。
ビニロン	1939年、日本で開発された合成繊維。生産量の80%が産業用資材として使われ、水溶性や難燃性、高強度、親水性などの加工が施される。綿やウールの3倍以上の摩擦抵抗抗力があり、耐光性に優れる。
ガラス繊維	糸の直径は1000分の1mm(1ミクロン)単位。ふわふわとした綿状の短繊維(グラスウール)は断熱材として、糸状の長繊維は工業材料や特殊な織物に使われる。引っぱり強度が高い反面、耐光性が低い。
新素材	通常の繊維よりも強度や耐熱性などが非常に高いスーパー繊維の1つ。アラミド繊維は、1960年代前半にアメリカで開発された。有機繊維の中でも高い難燃性能を持ち、消防士の防火服などにも利用される。
ナイロン	世界で初めて作られた合成繊維。引っぱりや摩擦、薬品などに強く、リュックをはじめ、アウトターや水着、ストッキングなどの衣類、タイヤや漁網といった産業資材、インテリアなど、幅広いジャンルで使用。

<参考資料> 静岡県繊維資材工業組合 (http://www.shizu-shizai.com/)

GLOSSARY

知れば細幅通な用語集

「袋織り織りの術!」



袋織りと袋綴り織り

その名の通り、二重になった生地の両はじがつながり、袋(筒)状になった織物。「厚み」が重要な細幅織物では、二重織りである「袋織り」が多用される。また、生地を上下を経糸で綴じたものを「袋綴り織り」と言い、カバンを持ち手などに使われる。さらに厚みを出すために、袋織りの中にあんこ(芯糸)を入れ経糸で綴じることもある。

綴り糸と絡み糸

<綴り糸>

二重組織の上下が分離しないようにつなぐための経糸。(接結糸)

<絡み糸>

ニードル織機で織物の片側がほつれてこないように緯糸とともに耳に編み込む。



綴り糸や絡み糸以外のメイン部分は地糸と呼ぶよ

パーバリーとコール

袋織りを綴じた「袋綴り織り」の一種。地糸4本に対して綴り糸が1本入っているものをパーバリー、地糸が多いものを畝(うね)がでることからコール天からとってコールと呼ぶ。



細幅業界でのパーバリーの名前の由来は謎

細幅織物をさがせ!



<答え> 鞆 / ネックストラップ / 靴ひも / 抱っこひも / マスクゴムひも / エプロンのひも / 腕時計のバンド / サスペンダー / ポロシャツの襟
カメラストラップ / ショッピングバックのひも / リュックひも / フードのひも / 服のパイピング / ファスナーの縁 / ミサンガ / 水筒のストラップ
リボン / ネームタグ / インサイドベルト / ペット用品 (ハーネス・リード)

細幅のある暮らし



屋内

- ① カーテン（カーテンテープ） ② シーツを縛るひも ③ ベッドマットレスの縁 ④ 耐震グッズ ⑤ あみぐるみ
⑥ 畳縁 ⑦ 座布団のひも ⑧ 掛軸のひも ⑨ 電気ひも ⑩ 茶器のひも（真田ひも） ⑪ モップの縁



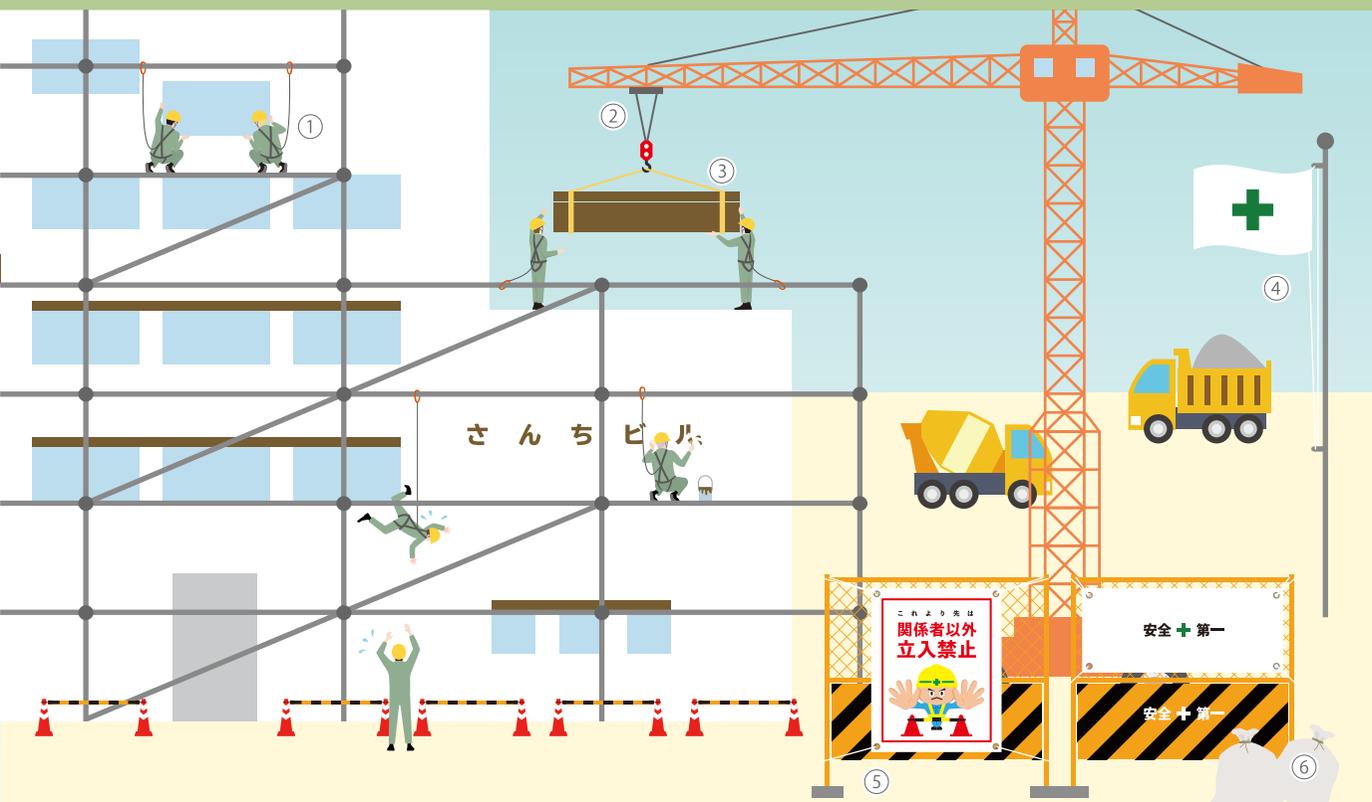
まち

- ① 自動車内装部品（シートベルト・チャイルドシート・リアハッチのテープ・高さ調整テープ・ラジエータの耐熱テープ・ケーブル・フロアマットの縁など） ② お守り ③ トラックの荷台ひも ④ 自動販売機 ⑤ ATM ⑥ 改札機 ⑦ ブランター



屋外

- ① テント(パイピング・ファスナー・ひもなど) ② 物干し用多機能ロープ ③ 椅子 ④ ハンモック ⑤ スラックライン
 ⑥ 荷物固定用ゴムベルト ⑦ クーラーボックス ⑧ 包帯・止血バンド・テーピング ⑨ 熊よけ鈴ベルト ⑩ ストックひも



現場

- ① 安全装備(ランヤード・ハーネス・ヘルメットひも・安全靴のひも) ② 吊り上げベルト ③ ラッシングベルト
 ④ 旗のひも ⑤ 鳩目のひも ⑥ 土のうのひも



海底～宇宙

- ① 高圧電力ケーブル
- ② 宇宙エレベーターのテストキット
- ③ 南極での運搬用(ソリなど)
- ④ 人工衛星
- ⑤ 航空機
- ⑥ ロケット
- ⑦ 気球
- ⑧ パラシュート(ひも・ハーネス・ヘルメットのベルト)
- ⑨ クライミング
- ⑩ サーフィン
- ⑪ ダイビング
- ⑫ 宇宙服

＼ 暮らしがときめく！ ／

細幅織物で作る“簡単DIYレシピ”

産業資材や服飾資材などに使われる細幅織物が、アイデア次第でおしゃれアイテムに変身。

どなたでも手軽に始められるレシピを織物工場に教えていただきました。

お家時間が増えた今、家族や友だちと一緒に作ってみよう！

レシピ

1 テープで
オリジナルプランター

準備するもの

テープ、かご、グルーガン

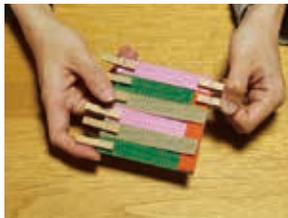
<作り方・材料提供> 株式会社白井繊維工業社
<http://www.shiraiseni.jp/>**1** かごは100円ショップで購入（今回は穴のたて幅が3cmのかごを使用）。かごの穴のたて幅と幅が合うテープを、79cm・74cm・72cm・70cmの長さにカット。**2** 一番上の段に、79cmのテープをかごの目にくぐらせる。1周したらかごの裏側で、グルーガンを使いテープ同士を固定。余ったテープが邪魔ならカットする。**3** 2段目は74cm、3段目は72cm、4段目は70cmのテープをそれぞれ通し、グルーガンで固定すれば完成！上下でテープを通すかごの目を変えると、雰囲気も変わりますよ。

レシピ

2 テープで
カラフルコースター

準備するもの

テープ、洗濯バサミ、台紙、グルーガン

<協力> 本橋テープ株式会社
「TAPE KIT」 <https://motohashi.base.ec/>**1** 台紙の上によこ向きにテープを6本並べ、洗濯バサミで片側を固定。反対側にたて向きテープを1本、よこ向きテープと上下が交互に（編むように）差し込み、洗濯バサミで固定する。**2** 最初に固定した洗濯バサミ6本をはずす。残りのテープ5本を上下交互に（編むように）、なるべくすき間なく差し込む。最後のテープが入ったら洗濯バサミで固定。**3** テープがほどけないよう洗濯バサミを数カ所はずし、形を整える。表面に出ている四隅のテープの1つから、順々にグルーガンで接着。裏側も固定したら完成！アイデア次第で
アイテムいろいろ！

ペットボトルホルダー



髪ひもアレンジ



ヨガマットバッグ

ペットボトルホルダーと髪ひも / 材料提供：株式会社第一天龍 <https://www.dai1-tenryu.co.jp/>

【事業者紹介】

01

COMPANY
PROFILE

トータル生産
システムで
業界を先導

川口細巾織物株式会社

(上) 茄子町の工場 / (下) 安全性の高いベルトスリング



創業86年を迎える老舗細幅工場 原糸の手配から最終製品まで一貫生産

川口細巾織物を訪れると、まずその規模感に驚かされる。本社がある茄子町の工場では、作業工程にあわせ縫製の機械が整然とレイアウトされ、ベルトスリングの仕上げ作業をしている。また、本社から車で30分ほどの場所にある西ヶ崎工場では、昔ながらのシャトル織機や最新式のニードル織機を使い、ベルトなどの生地を生産。さらに、大型機械による染めや乾燥といった一連の加工、穴開けや縫製といった作業も行われている。厚さ6~7mm、幅300mmまでの細幅織物を織れる工場は、遠州地方では本社だけだと言う。

1935(昭和10)年、川口喜一によって細幅織物の製造工場として馬込町に創業。当初は襟芯(えりしん)やかばんのベルトなどを扱い、その後、水筒やカメラなどのストラップを生産するようになった。日本経済が成長し、メーカーがカメラなどを海外で生産するようになると、一部品であるストラップも海外で作られるようになり、仕事は激減。30年ほど前からは、荷物などを吊り上げるベルトスリングや自動車のシートベルトの生産に切り替えた。2004(平成16)年には、染色機を中心とした製造設備を増やし、2009(平成21)年には、ポリエステル染色機を導入。織りから染色、縫製まで、自社での一貫生産、一元管理を進めていった。現在では生産物の約4割がベルトスリングで、その99%が個社ごとのオリジナル商品。顧客ニーズにあわせた、きめ細やかな対応への評価は高い。

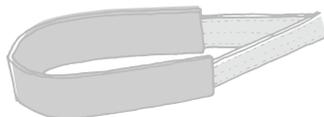
高い技術力と提案力で 高付加価値製品を提案



川口細巾織物の強みは、何と言っても糸、織り、染め、縫製アッセンブリまですべてを自社でこなす「トータル生産システム(一貫生産)」。糸の手配に始まり、製織や染色、生地を安定させる熱加工(ヒートセット)。さらには、製品の用途に応じたカット、厚手用ミシンでの縫製、穴開けや超音波カットといった二次加工処理やアッセンブリも行い、最終製品まで完成させることができる。加えて、引っ張り強度や摩擦堅牢度などの検査も自社設備で行い、品質面も担保。同社の技術力、品質は高く、ベルトスリングにおいては、日本で15社しかない「JISマーク認定工場」に指定される。厳密に決められた要件をクリアすることで、同社で作られた製品にJISマークが表示される。

一貫生産を生かし、さまざまな提案をしている。要望のヒアリングを行い、それに適した原料を選定。使用用途に応じて厚みや幅、色、織り方を決める。「業界では、生地を織っても最終製品が何になるか分からない場合も少なく

ありません。しかし弊社では、製品の9割の最終用途を把握しているので、製品特徴をふまえ、1歩先を読んだ提案を心掛けています」と代表取締役社長の服部明彦さん。同社の製品ではないが、かつてベルトスリングで船を持ち上げ補修作業をしていると、船底の鋭利な部分によってベルトが切断。船が落下するという事故が起こった。そこで同社は、ベルトスリングを傷から守る保護コーナーに切創性の高い(切れにくい)繊維を使うことで同様の事故が起こらない製品を開発。クライアントの多くは30~40年ほどの付き合いがあり、時代にあわせ新たなニーズを引き出し、高い商品価値を維持している。



繊維業界の枠を超える 幅広い仕事で業界をリード

繊維は綿や麻などの天然繊維と、ポリエステルやカーボンといった化学繊維に大別できる。川口細巾織物で取り扱うのは基本的に化学繊維のみで、糸伸度が低く、織りの技術力が求められるスーパー繊維にも対応。東レや帝人といった大手化学メーカーとの関係性が近く、耐震補強や防弾チョッキなどに使われる金属に近い、通常繊維の5倍以上の強度がある素材を使って共同開発した製品もある。「うちの商品は、一般の人が思うアパレルなどの織物とはまったく違う世界です。宇宙エレベーターのテストキットのベルトを作ったこともありますよ」と笑う服部社長。そんな同社の今後を尋ねた。「10年後も20年後も継続している企業であるために、どれだけクライアントの要望に応えられるかが大事です。そのためには、営業はもっと製造の知識を付けなければいけないし、製造もお客さまのニーズを知ることで、より高いレベルの提案をしていきたいと思います」。これからも繊維業界を牽引する同社から目が離せそうもない。



- 糸の手配から、織り、染色、加工、製品仕上げまで自社工場内で
- 一貫生産、一元管理する細幅織物のリーディングカンパニー。
- 顧客ニーズをつかみ、時代にあわせた+αの価値を提案する。
- 大手化学メーカーと特殊繊維を共同開発するなど
- 20年先を見越し、新しい細幅織物の可能性を探り続ける。



OFFICE DATA

- 〔代表者〕 代表取締役 服部明彦
- 〔創業〕 1935年 [設立] 1952年4月28日
- 〔資本金〕 8,800万円
- 〔従業員〕 61人
- 〔住所〕 〒430-0912 浜松市中区茄子町446
- 〔TEL〕 053-461-1401 [FAX] 053-461-5937
- 〔INFO〕 08:30～17:30 休 土・日・祝・夏季・年末年始
- 〔MAIL〕 a-matsui@knf-inc.co.jp
- 〔HP〕 <http://www.knf-inc.co.jp/>

● 問い合わせ担当者：松井昭文

社長のブログ
『Madein浜松』で頑張る川口細巾織物
<https://knfinc.toushikusei.net/>

社長は気さくで従業員との壁はなく、分け隔てなく話をする姿が印象的。外国人スタッフも多く、アットホームな雰囲気職場。

- 事業内容 糸の手配から、織り、染色、加工、製品仕上げまで
- 製造品目 厚地・薄地ベルト（幅約300mmまで）、染色、その他加工、縫製加工
- 製造品用途 ベルトスリング、ラッシング、自動車部品、その他産業資材用途製品
- 取扱素材 綿、レーヨン、混紡、アクリル、ポリプロピレン、ポリエステル、ビニロン、新素材、ナイロン

設 備		
スイス製ニードルルーム	ベルトの製織を行う高速マシン	51台
厚地ベルト連続染色機	ポリエステル製ベルトの連続染色機	1台
熱セット加工機（厚物専用）	厚地用ベルト整理加工機	1台
スリング縫製マシン	厚地用縫製マシン	48台
産業資材向コンピューターマシン	コンピューターパターンマシン	54台
超音波・溶断ベルトカット機	測長付ベルトカット機・穴明け加工機	18台
万能材料引張試験機	ベルト強度測定機	2台

- 決済方法 銀行振込み、現金・手形（月末締め翌月25日支払）
- 繁忙期 10月～12月頃



細幅織物を手掛ける会社は数多くありますが、川口細巾織物様は、準備から製織、染色・仕上げ、縫製まで一貫して手掛けておられることで、高性能・高品質の製品を供給いただいております。また、自動車、産業用途からアパレルまで分野の幅が広く、それぞれの要求に柔軟に対応されていると思います。当社とのお付き合いも長く、われわれのモノづくりに協力していただいております。細幅織物の総合メーカーとして、頼りがいのある会社様です。 芦森工業株式会社 機能製品事業本部 / 執行役員 統括部長 中塚宏文





RECOMMENDED

KHスリング

最小ロット：1本より出荷

納期目安：在庫品翌日出荷

強力ポリエステル系を使用。伸びが少なく、スムーズに作業を進めることができ、あらゆる吊り荷作業に効果的なベルトです。



KHラッシングベルト

最小ロット：1本より出荷

納期目安：在庫品翌日出荷

強度と機能が自在に“選べる”

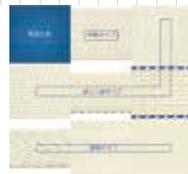


ポリエステルベルト

最小ロット：100mより出荷

納期目安：在庫品翌日出荷

色々な幅のラインナップがあります。高強度で耐摩擦・耐久性に優れています。弾力回復率が高く、バリ・コシがあります。耐熱性に優れ、耐薬品性が高く、油脂類にも影響されにくい。



【事業者紹介】

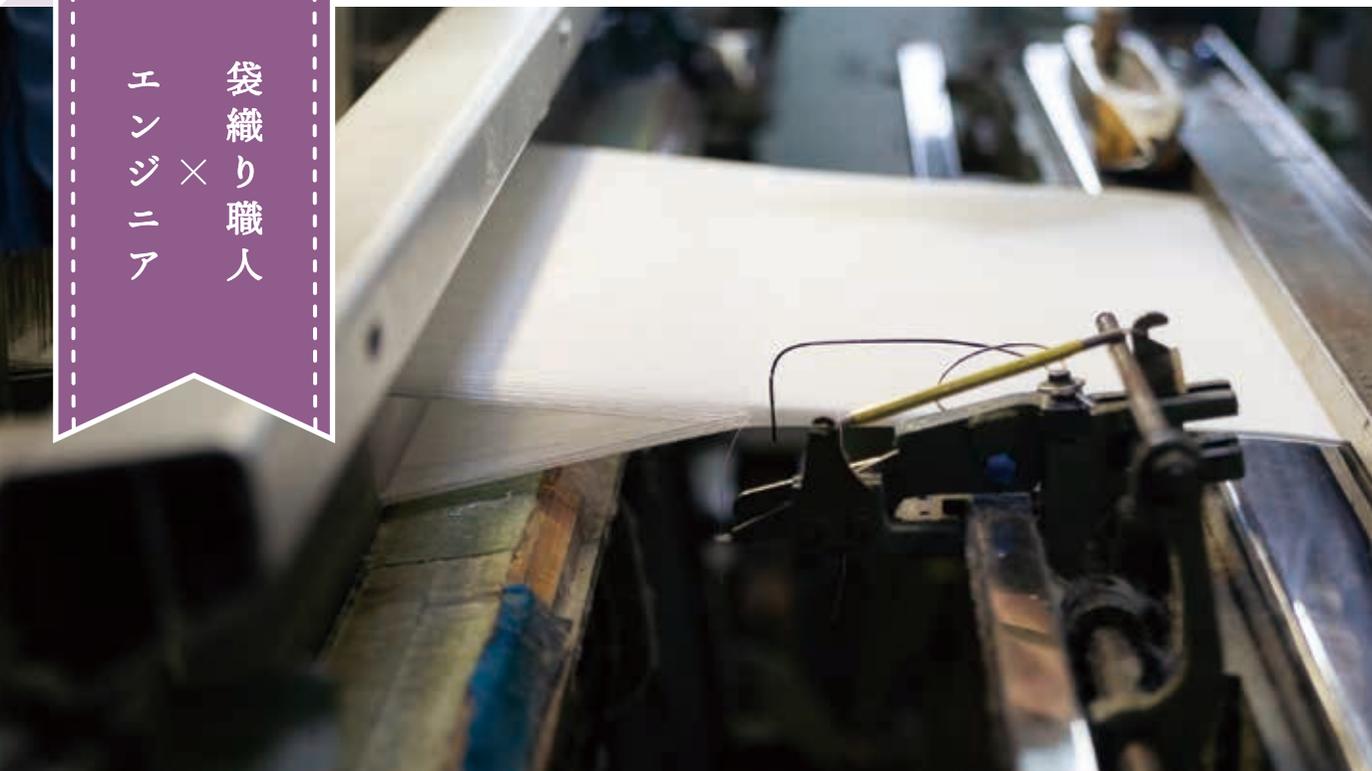
02

COMPANY
PROFILE

袋織り職人
×
エンジニア

丸啓細巾工業株式会社

(上・下)新旧の織機で織る「袋織り」



昔ながらのシャトル織機を操り 「袋織り」にこだわる織物工場

多くの車が行き交う六間道路と自動車街通り(国道152号線)の交差点のそば。歴史を感じさせる平屋の建物に入ると、昭和初期のシャトル織機や整経機、ワインダーなどが所狭しと並んでいる。ここが丸啓細巾工業の植松工場であり、創業の地。昭和初期に広幅織物を始め、軍用のゲートル(脚半)などを扱っていた。その後、広幅織機を改造し、小幅や細幅などにも対応できるようになる。現在は「袋織り」に特化した工業資材織物の生産を行っている。

袋織りは二重織りの一種で、両端の耳部分を表布裏布が接合し、筒状になる織り方のこと。つなぎ目がなく、エンドレスでリング状になった立体的な織物だ。この袋織りを基布(きふ)として樹脂やゴムなどでコーティングし、駅の券売機や改札機、ATMなどのベルトとして使われる。ワイヤー製のベルトと比べ伸縮性があり、耐久性に優れる。他にも、崖崩れを防ぐ擁壁(ようへき)としてコンクリートを流し込む下地部分にも使われている。「うちにある織機は、すべてシャトル織機です。ニードル織機でも袋状に織れますが、強度や品質をクリアできるものはシャトル織機でしか織れません」と代表取締役の鈴木利喜平社長。シャトル織機は異素材の組み合わせに強く、アナログな機械である分、季節や天候にあわせて柔軟に調整できるが、それは高い経験値があつてこそ。ベルトになったときのことを考慮し、シャトル織機だから生まれる生地(じ)の耳の部分をいかに他と同一に仕上げるか技術力が問われる。幅は50mm~1500mmまで対応。ベルトの厚みを出すために芯地を入れることで、最大10mmの厚さまで織れるというから、同社の袋織りの技術力がいかに高いか分かる。



試作と実験を繰り返しながら 数多くの特殊繊維を極める

仕事の依頼は商社からも来るが、資材関連会社や製造会社、東レといった原料メーカーから直接来ることも多い。綿やレーヨン、ポリプロピレン、アクリルなど、30種類以上の素材を扱えるのが同社の強み。特殊繊維ごとに使われている成分が違うため、準備工程の糊付けも素材ごとに調整する必要があり、新しい素材を扱うたびに毎回が手探り状態だ。「昔は、目出(あまった糸)を使っているの」と試作や

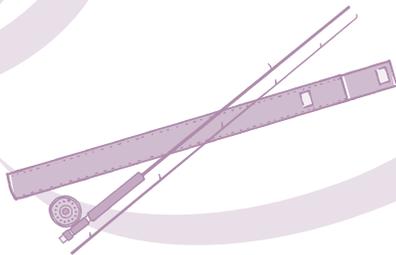
実験ができたけれど、今は特殊繊維が多くなってそれとも難しくなりました」と鈴木社長。浜名湖そばにある呉松開発センターでは、さまざまな繊維素材の試作、開発を行っている。炭素繊維や金属繊維はもちろん、生分解性プラスチック繊維といった異形・扁平糸などの特殊繊維も取り扱える同社の知識と技術力が、多くのクライアントの信頼につながっている。

丸啓細巾工業にあるシャトル織機の一部は、「スズキ歴史館」に展示されているものと同じ型のビンテージ品。1990年代にはパーツの製造も終わり、メンテナンスに苦労している。パーツは保管していても場所をとり、経年変化で傷んでしまう。そこで立体物を作れる3Dプリンターを導入。木管(ポピン)の軸受けを出力するなど、必要なときに必要なパーツが手に入り、メンテナンスの不安も解消した。家業を継ぐ前は電気関係の仕事をしていたこともあり、電子工作が得意な鈴木社長。自身でマイコン基盤を設計し、中国に発注。シャトル織機の緯糸がなくなったら自動で止まるセンサーや、何メートル織れたか分かるカウンターなどを自作している。「効率化にもつながるし、何よりパートのお姉さんたちからとても喜ばれるんですよ」と目を細める。

少年のような探究心で 細幅織物の可能性を追求

10年ほど前、3代目にあたる息子の陽平さんが入社。創業者である祖父から技術を学び、植松工場の責任者として活躍している。「繊維業界は縮小傾向にあるので、他の会社とも連携しながら産地として盛り上げていきたいですね」と意気込む陽平さん。継続して事業を行っていくために、新規開発のための補助金を申請し、排水フィルターなどに使う二重構造多機能フィルターの開発に取り組んでいる。他にも、生産効率を上げるため広幅織機を改造し、細幅織物を複数本同時に織ることもしている。また、細幅織機でも、多重織りすることで広幅織物ができないかと、実験を繰り返している。

変わった試作品がもう一つあってねと見せてくれたのが、立体造形の袋織りを生かした釣りざお袋。「魚釣りが趣味だから作ってみたのでぜひ販売したい」と語る鈴木社長。工作好きな少年のように、柔軟な発想で新しい細幅織物の可能性を探る丸啓細巾工業。新しいアイデアは、そんな遊び心と実験心から生まれるのかもしれない。



細幅、小幅、広幅のシャトル織機を巧みに操る

袋織りに特化した、工業資材専門の織物工場。

30種類以上の素材を扱う高い技術力に定評あり。

3Dプリンターや自作の電子装置を取り入れ

柔軟な発想で細幅織物の持続可能性にチャレンジし続ける。



●会社や仕事の好きなところ●

昭和初期に製造された織機で、最新の製品を製造出来る事



OFFICE DATA

- 〔代表者〕 代表取締役 鈴木利喜平
- 〔創業〕 1933年11月 〔設立〕 1971年8月17日
- 〔資本金〕 300万円
- 〔従業員〕 5人
- 〔住所〕 〒430-0803 浜松市東区植松町1471-11
- 〔TEL〕 053-461-9602 〔FAX〕 053-464-7618
- 〔INFO〕 08:30～17:30 休 土・日・祝・夏季・年末年始
- 〔MAIL〕 marukei@marukei.com
- 〔HP〕 <https://www.marukei.com>

●問い合わせ担当者：鈴木陽平

自宅の一室は、昭和天皇が皇太子時代に浜松に、お越しになった際、宿泊した旅館を移築したそうです。

- 事業内容** 工業資材織物をメインに、設計のご提案から製織・加工を細幅織物を始め小幅・広幅サイズの織物を製造
- 製造品目** エンドレス帆布、厚地テープ（バンド）
- 製造品用途** エンドレスベルト・各種の工業製品にパーツとして使用
- 取扱素材** 綿、レーヨン、混紡、アクリル、ポリプロピレン、ポリエステル、ビニロン、ガラスヤーン、新素材、人絹、ナイロン

設 備		
細巾織機	全てシャトル織機で織口数が2～5 本掛け	8台
小幅自動織機	全てシャトル織機で織り幅が65cm まで	14台
広幅自動織機	全てシャトル織機で織り幅が150cm まで	5台
整経機	経糸をドラム状のビームへ巻く	3台
アップツイスター捻糸機	糸へ捻りを掛ける機械	1台
ドラム式ワインダ	糸を一定の数量を巻き分ける機械	4台
3Dプリンタ	工場内で使用する機械・パーツを製作	1台
旋盤・フライス盤	工場内で使用する機械・パーツを製作	各1台



- 決済方法** 銀行振込・現金（月末締め翌月20日まで）
- 繁忙期** 6月～3月頃
- その他** 英語可・見学可



弊社と丸啓細巾工業様とはもう40年以上のお付き合いとなります。化繊素材をお願いすることが多いのですが、守備範囲は細幅から広幅、汎用繊維からスーパー繊維まで幅広く、製品開発時の無理難題にも柔軟に対応いただき、鈴木社長のエンジニアとしての姿勢、技術力に何度も助けられました。最近は3Dプリンターを活用した消耗パーツ、品質改善パーツの自作にも取り組まれ、その尽きない探究心・好奇心に頭が下がります。今後も丸啓さんとともに、世界で通用する製品作りを続けていきたいと思っております。
ニッタ株式会社 / 技術部・副部長 小西良寛





昭和初期の織機から最新型のものまで

3Dプリンターによる織機の部品開発

電気工事会社で働いていた知識を生かして自作

RECOMMENDED

エンドレス帆布

金額目安：1,500円～/m

最小ロット：10m～

納期目安：2週間～1ヶ月

織り幅が1cm～150cmのエンドレス帆布を製織出来ます。



薄地伸縮帆布

金額目安：500円～/m

最小ロット：10m～

納期目安：在庫品で3日、新規で2週間

伸縮性能が高い帆布で、タイミングベルトの歯布へ使用するとベルトの寿命が10倍。



厚地テープ(バンド)

金額目安：300円～/m

最小ロット：50m～

納期目安：1カ月

各種の工業製品にパーツとして使用されています。



立体造形の袋布

金額目安：3,000円～/m

最小ロット：1m～

納期目安：現在開発中

スマートで粋な釣り竿袋を開発中ですがサンプル有り。



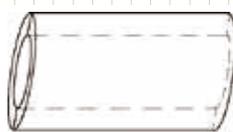
二重構造多機能フィルター

金額目安：1,000円～/m

最小ロット：1m～

納期目安：現在開発中

袋形状を二重織り構造にして、組織密度を内袋を疎に、外袋を密にして1枚で2種類の構造をもつ、二重構造多機能フィルター



二重構造多機能フィルター

袋織りの説明

二重織の一種。経糸を二重にかけて、緯糸がこの間を回って組織され、耳の部分以外は表裏の組織を揃ませずに離して袋状に織ったもの。主に帯地に用いる。



袋織り

【事業者紹介】

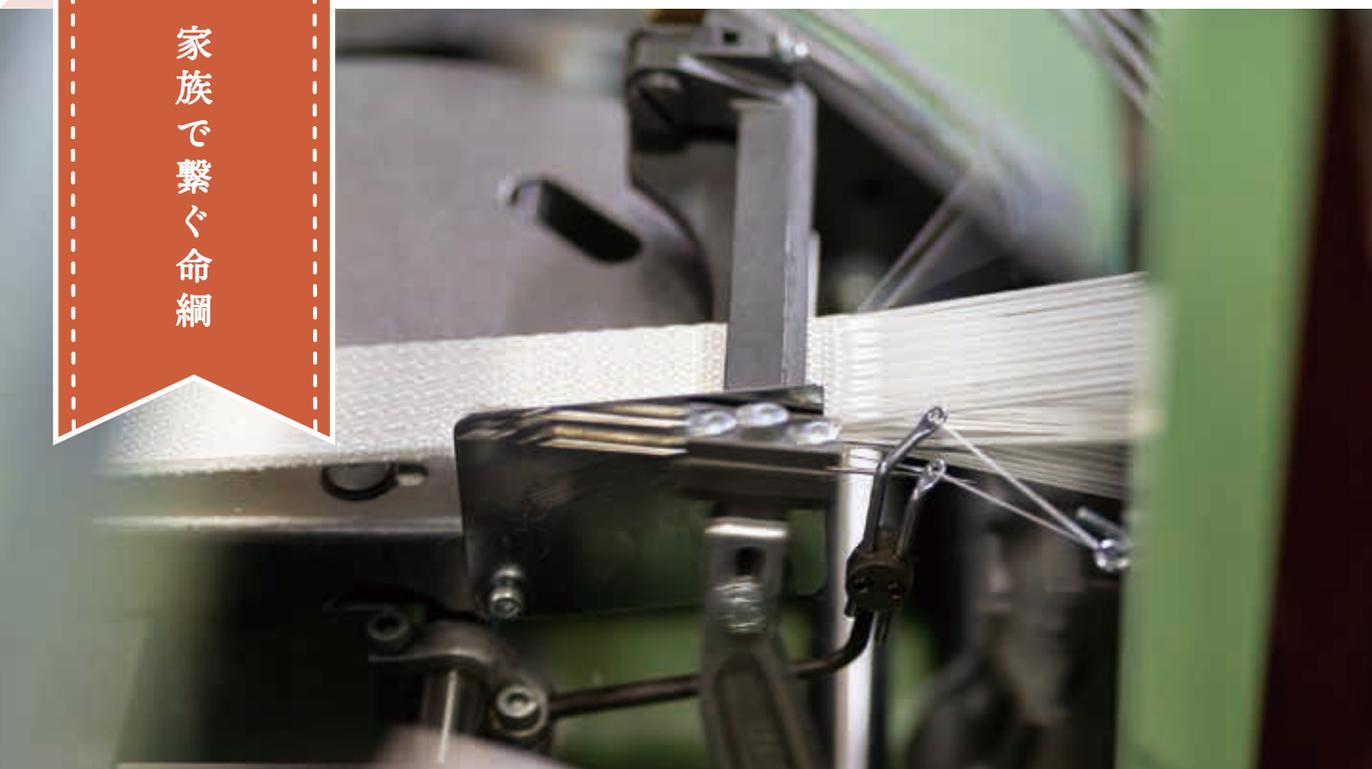
03

COMPANY
PROFILE

家族で繋ぐ命綱

大東テープ工業株式会社

(上)安全帯用テープ / (下)技術を引き継ぐ



ホテルマンから職人へ 77年続く特殊織りの機屋

坂堀に囲まれた趣ある木造家屋の裏手に、大東テープ工業の工場はある。昔から変わらない職住近接のスタイルだ。出迎えてくれたのは3代目である代表取締役の田中孝憲さん。実は家業を継ぐつもりはなく、30代まで浜松市内でホテルマンとして活躍していた。当時はオールバックの髪型にタキシード姿、白手袋を着用し、ウエディングやパーティの席番を担当していたという。「ある時、家業を手伝ったところ、嫌だと思っていた織機の音、糸の匂いなどに抵抗がないことに気づきました。そして長く続いてきたこの家業を存続させたい、という気持ちに変わりました」と、田中社長。

社長の祖父である創業者の田中祥介さんは、もともと大阪市内で繊維卸業の仕事をしていた。太平洋戦争末期、取引先の多かった浜松市に疎開。1944(昭和19)年、田中テープ工場を創業した。1952(昭和27)年には、大東テープ工業株式会社を設立。会社名は、当時本社営業所があった大阪市東成区に由来している。



努力の積み重ねが、職人の命を守る ロングセラー商品を安定供給

主力製品は、工事現場で高所作業をする職人が命綱として使う安全帯のベルト、ハーネス、ランヤードなどの材資となる細幅テープ。2019(平成31)年2月、厚生労働省の法改正があり、安全帯の基準がより厳しく、非常に高い安全性が求められるようになった。

大東テープ工業では、安全帯のショックアブソーバ(墜落時の衝撃をやわらげる装置)に使う特殊構造のテープを生産。また、リール式(巻き尺)になったランヤードは、内と外でかかる力が異なるため、スーパー繊維の一つ「アラミド繊維」を一緒に織り込み強度を高めている。安全帯メーカーとの直取引によるレスポンスの速さ、他社ではまねできない高い技術力にメーカーからの信頼は厚い。

もう一つの主力商品が、銅線織り込みテープだ。30万~100キロワットにもなる発電所の高圧な電力を海底ケー

ブルや地下ケーブルで送る際、ケーブルが高圧に耐えられるよう、放電の役割としてこの銅線織り込みテープを巻き込んでいく。製造を続け、かれこれ60年以上になる。経糸に金属線を織り込むこの技術を扱えるのは、日本で数社だけだという。

温かな家族経営と設備投資で 時代に負けないものづくり

田中社長がホテルに在勤時、上司に教わったことがある。「100点満点の接客は有り得ない。お客様は、駐車場、ベルマン、フロント、レストラン、宴会、客室など、幾人ものサービスを受ける。その中で点数を付け、それが平均60点を下回るとクレームという形で帰って来る。私たちはそれぞれが85点以上を目指さなければならない」

それは、製造業にも通ずるものがある。大東テープ工業では、毎日10時と15時に全てのテープ幅を計測し、状態をノートに記載する。織物は織細で、天候、湿度により経糸の張りが変化し、幅が変わる。また、織機によっても個体差が出る。「ものづくりとは、製造管理の継続で、85点以上を目指すことである」と語る。

今後の事業継続を見据え、設備投資にも積極的だ。長く使っていた国産織機メーカーが廃業し、メンテナンスが難しくなったため、6年ほどかけて日本に直営店を持つヤコブミュラー(スイス本社)の織機に全て入れ替えた。厚地の製品を織るパワーのある織機や、銅線織り込み用織機、コンピューターで綜統(そうこう)を制御できる最新機種など、さまざまな織機がきれいに整頓された工場に並ぶ。

4年前に技術担当として息子の悠人さんが入社。スイスのヤコブミュラーが開設する技術トレーニングを受講した。現在は社長の母と妹と一緒に家族4人で仕事をしている。「家族経営なので、同じ製品をできるだけ長く続けていきたいですし、価格競争に巻き込まれない特殊なものを手掛けていきたいですね。家業をつぶさないようにというプレッシャーはいつも感じています。息子が入ってくれたおかげで、メーカーから継続していく意思があると思ってもらえたようです」と、表情がやわらぐ田中社長。昭和から平成、令和へと、時代が大きく変化しても、変わらず高品質な商品を作り続けられる秘密は専門に特化した職人技が、次代へしっかりと受け継がれているからかもしれない。



繊維卸業にルーツを持つ、小回りが利く織物工場。

スイス製細幅織機を使い、メーカーから直接受注。

職人の命を守る安全帯ベルトやハーネスのほか

送電ケーブルに使う放電用テープを60年以上生産。

細やかな対応力と、高い技術力がなによりの強み。



OFFICE DATA

- [代表者] 代表取締役 田中孝憲
- [創業] 1944年 [設立] 1952年
- [資本金] 1,000万円
- [従業員] 4人
- [住所] 〒431-3107 浜松市東区笠井町382-4
- [TEL] 053-434-1831 [FAX] 053-434-1832
- [INFO] 08:00～17:00 休 土・日・祝・夏季・年末年始
- [MAIL] daito-tk@cy.tnc.ne.jp
- [HP] なし

● 問い合わせ担当者：田中孝憲

元ホテルマンの社長は営業担当として、工業高校出身の長男は技術担当。お互いの得意分野を生かし、仕事でも息がぴったり。

事業内容 産業資材用の細幅織物を中心に製織

製造品目 ベルト、ハーネス、ランヤード

製造品用途 工事現場等で使用する安全帯のベルト、ハーネス、ランヤード

取扱素材 レーヨン、ポリエステル、ナイロン、アラミド繊維

設 備

ヤコブミュラー(株):本社スイス		
・NC	厚地テープ用 / 幅100mm	1台
・NF	中厚地テープ用 / 幅50mm	2台
・NFRE	中厚地テープ用 電子制御付 / 幅50mm	1台
・バリテックス	薄地テープ用 / 幅100mm	7台



弊社ヤコブミュラー日本と、大東テープ工業の田中様とは、先代代表から数十年に渡り、世代を超えてのお取引、お付き合いをさせていただいております。営業で訪問の際、いつも感じるのは、エントランスから事務所、工場、倉庫など、掃除が行き届いていることです。聞けば、社長が朝出勤時、自らトイレ清掃、工場の掃除機掛けなどを行っているとのこと。整理整頓された工場は気持ちが良い、社員全員の丁寧なものづくりの姿勢に驚くのではないかと思います。社員皆様の常に挑戦される姿勢に、私共も微力ながらお力添えさせていただき、さらなるご発展を心より願っております。

ヤコブミュラー日本株式会社 / セールスエンジニア 世戸勇樹





DAITO TAPE KOGYO

RECOMMENDED

中厚地テープ

安全帯リール式ランヤード使用
厚1.7mm×幅18mm



厚地テープ

安全帯ランヤード使用
厚4mm×幅18mm



厚地テープ

安全帯胴ベルト
厚2.5mm×幅50mm



【事業者紹介】

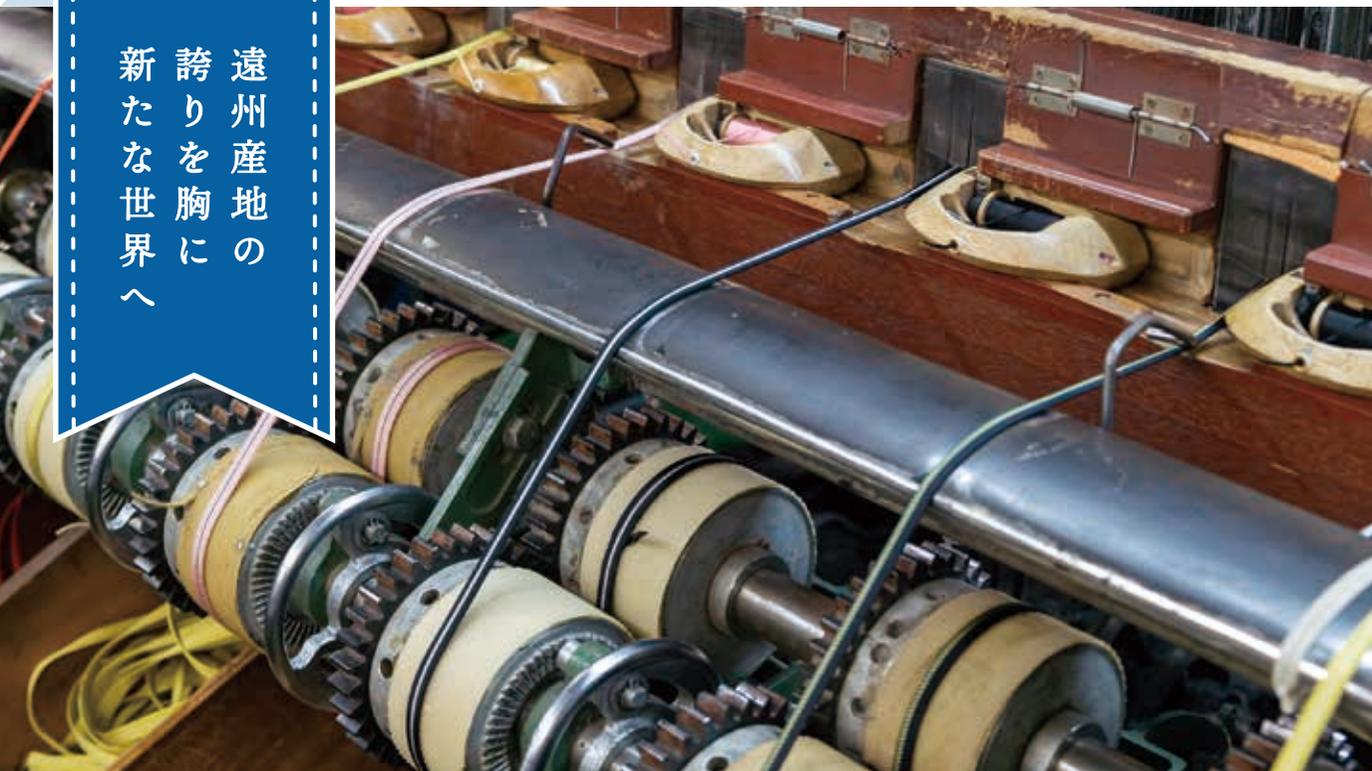
04

COMPANY
PROFILE

遠州産地の
誇りを胸に
新たな世界へ

株式会社第一天龍

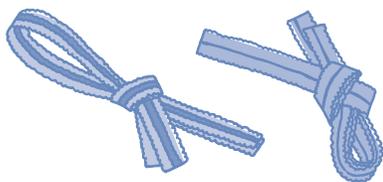
(上) 丸ひもを作る製紐機 / (下) 真田ひもを一台の織機で製織



軍需関係の織物をルーツに 服飾から資材まで幅広く生産

「2019年に『綿の産地フェア はままつ染め織りマーケット』に初めて参加して気付いたのが、浜松は織物の産地ですが、一般の方に細幅織物があまりにも知られていないということ。正直とってもショックでした」と語るのは、代表取締役の宮崎高志さん。長く企業向けに仕事をしてきたが、消費者へ目を向けるきっかけになったできごとだった。

第一天龍は、1950(昭和25)年に創業。東京にある町田絲店で働いていた祖父が、綿産地である浜松に移住。パラシュートのひも、兵隊のかばんやゲートルといった軍需品を扱っていた天龍工業という織物工場が倒産し、それを引き継ぐ形で細幅織物を始めた。その頃生産していたのは、綿製のストープ芯や服飾のインサイトベルト(芯地)。1980年代頃からアパレル関連の広幅織物の需要が急激に落ち込むのに合わせ、細幅織物も衰退していった。「服飾だけでは厳しく、産業用資材などの生産もはじめ、製造のすそ野を広げ、一般の方の目に触れない仕事も増えていきました」と当時を振り返る会長の宮崎秀和さん。取引先は、東京や大阪、名古屋にある問屋をメインにし、創業当時からつきあいのある会社も少なくない。現在はネームタグや茶器の箱ひも、かばんの持ち手となるテープやひもなどを生産。厚さや幅、素材、織り方などの違いによって、1000品目ほどを取り扱っている。



職人の誇りと技術を受け継ぐ 遠州産地への熱い思い

高速で効率的なニードル織機の他に、昔ながらのシャトル織機も現役で活躍する。シャトル織機でしかできないものや、ゆっくり織ることで生まれる独特の風合いを求めらるお客さんがいるためだ。シャトル織機は仕組みが簡単のため、作り手の技術力によって差が出てしまう難しい織機。今の時代、ボタンを押せば、誰でも同じように作れる機械も多いが、織物業界においてそれは当てはまらないと宮崎社長は言う。「糸の素材、その日の気温や湿度に合わせて織機の調整が必要ですから。感覚的な部分も多く、レシピとして明文化できません。たとえレシピ化できたとしても、同じ条件で、同じように織っても、同じものができるとは限りません。

それが織物の面白さでもあるんですけどね」と笑う。「あくまでこれは私の織り方であって、職人自身が工夫することが大事なんです。先人の仕事や失敗から学んでいく。その積み重ねが『織物の産地としての遠州』を作っているんでしょうね」と続ける。

遠州産地内に協力工場も多く、織り、染め、加工、織機のシャトルや箆(おさ)を作る職人などを含めると、その数は10社を優に超える。そんな社外のつながりを同社はとても大切にしている。「社員だけでなく、外の人も気持ち良く仕事をしてもらえるよう心掛けています。難しい仕事や、こちらの無理をお願いすることも少なくないです。結局は、人なんです。あいつのためにやってやるか、そんな関係を築けるのも、互いの距離が近い産地ならではの強みだと思います」



工場と消費者をつなぐ 新商品開発で殻を破る

消費税の増税や、新型コロナウイルスの影響もあり、工場から消費者へ直接アプローチする重要性をひしひしと感じている宮崎社長。ホームページを立ち上げたり、イベントに出店したりするのも、そんな危機感があったから。B to BからB to C、さらにECサイトを活用したD to C(工場から消費者)を目指す。現在は、地元の作家さんや縫製会社と協力しながら、オリジナルバッグの試作に取り組んでいる。「問屋さんの仕事が多かったから、これまで聞くことのなかった消費者の声を製品作りに生かしたいと考えています。問屋さんからの『ありがとう』という言葉は、社長や営業など一部の人間に限られていました。自社商品を作ることで、製造の従業員にも感謝の声が届き、やりがいにつながってくれたらと期待しています」

今後は、広幅織物などの別業界と一緒に新商品を開発したり、クリエイターを仲介役に、自社商品や産地としての細幅織物を知ってもらう機会を作ったりしたいと声を弾ませ夢を語る。「これまでしてきた企業間取引から外れる怖さや、自ら消費者の前に出て行く怖さはあります。おまへの所はこんな商品しか作れないのかと言われるかもしれないし(笑)。でも今までは、そんな苦情やマイナスな意見を聞かなくてもよかった環境にいたので、その殻を破っていきたいですね」。先代から会社を引き継いで4年。若き社長の挑戦は、まだ始まったばかりだ。

昔ながらのシャトル織機や最新のニードル織機

多彩な柄を織れるジャガード織機、せいちゅうきひもを織る製紐機を

巧みに使い、先人譲りのこだわりの織りが自慢。

細幅織物の産地としての存在感アップに奔走する。

消費者と直接つながれる工場を目指し、格闘中。

会社や仕事の好きどころ

お客様に喜んで頂き
リピートしていただける
製品を作っている時に
やりがいを感じます。



OFFICE DATA

- [代表者] 代表取締役 宮崎高志
- [創業] 1955年10月21日 [設立] 1955年10月21日
- [資本金] 1,080万円
- [従業員] 12人
- [住 所] 〒435-0018 浜松市東区葉新町131
- [TEL] 053-421-0121 [FAX] 053-421-2095
- [INFO] 08:00～17:00 休 土・日・祝・夏季・年末年始
- [MAIL] dai131@vega.ocn.ne.jp
- [HP] <https://www.dai1-tenryu.co.jp>

● 問い合わせ担当者：宮崎高志

会社の玄関前でマスク用のゴムひもや真田ひも、
手芸用のアクリルバンドなどをお手頃価格で
販売中。掘り出し物があるかも。



事業内容 糸の手配から製織、後加工まで細幅織物の製造・販売

製造品目 厚地・薄地テープ、組ひも

製造品用途 ネームタグ、茶器の箱ひも、バッグの持ち手

取扱素材 綿、レーヨン、混紡、アクリル、ポリプロピレン、ポリエステル、ビニロン、絹、ナイロン、麻、コーネックス、ケブラー、PPS等

設 備		
ニードル織機	ペラ針を使用し緯糸を鎖状に編んでいく事でテープを製造する高速織機	12台
シャトル織機	シャトルが左右に移動することで緯糸を編んでいく織機	18台
カット機	既定の長さにかつする機械	2台
ヒートセット機	テープに熱をかけて製品を整える装置	2台
ジャガード織機	模様などのテープを織る織機	2台
製紐機	16打ちの組ひもを製造する機械	20台

決済方法 銀行振込・現金

繁忙期 10月～4月頃



広く細幅織物を一般消費者の方々にも知って頂きたいと思ひ、ECサイトを活用しています。弊社の織人達が新しい商品を自ら開発してお客様に見ていただき購入していただく。消費者の方々の反応がダイレクトに伝わり励みになっています。是非ご覧ください。

<サイト名：Creema / 店舗名：天龍印>
<https://www.creema.jp/creator/4959565>





RECOMMENDED

真田ひも

特に絹を使用した真田ひもは織るのが難しく貴重。



綿バンド

綿の優しい風合いと、丈夫さを持つ。



綿スピンドルテープ

シャトル織機で織った厚手のテープ。伸びが少なく頑丈。



エステルメッシュベルト

スパンエステルを使用した網目状のベルト。



亜麻テープ

毛羽立ちが多いリネンをシャトル織機で時間を掛けて織る事で綺麗な製品ができる。



ケブラー・コーネックス変わり織

強度と耐熱性というそれぞれの糸の特徴を出すために素材の違う糸を織る織り方。



【事業者紹介】

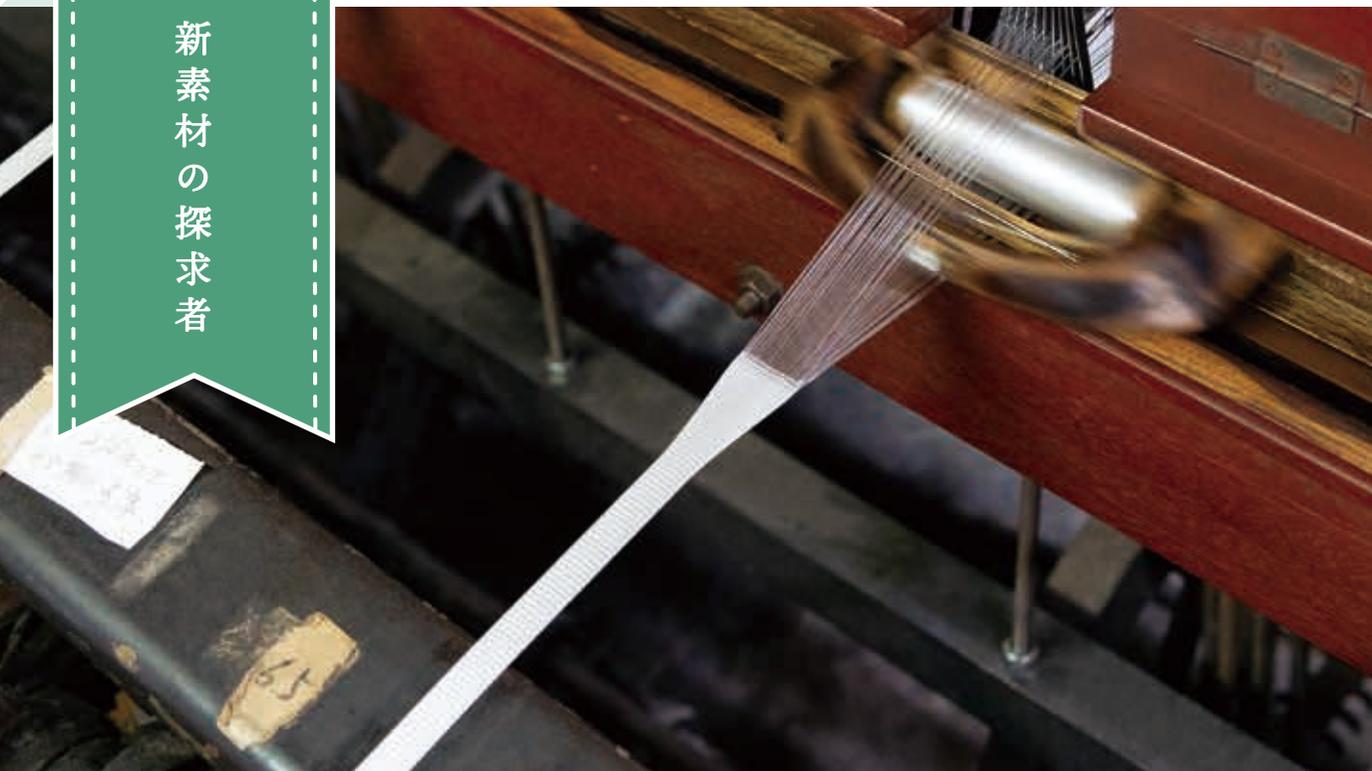
05

COMPANY
PROFILE

新素材の探求者

平織産業株式会社

(上)シャトル織機 / (下)最新式ニードル織機



天然素材から化学繊維まで 素材を意のままに扱う技術力

繊維産業は国の基幹産業として日本の近代化に大きく貢献してきた。平織産業の創業は、戦後間もない1948（昭和23）年のこと。綿やスフ（レーヨン）を短くカットしたものなどを扱う小幅織物の製造から始まり、数年後にはシーツを縛るひもなど、簡素なひもを扱う細幅織物にシフトしていった。1965（昭和40）年にはカーテンテープの製造をはじめ、1980年代になると、商社を通じてカーテンテープを海外へ積極的に輸出するようになった。特に日差しの強い中東では厚手のカーテンの需要が高く、売上の90%以上を占めるまでに成長。しかし、1980年にイラン・イラク戦争が起ると、国の施策もあり輸出はストップ。売上はゼロになった。そこでカーテンテープは国内向けの販売に切り替え、さらに、携帯電話のストラップやカメラストラップ用テーパータープ、他社では難しい特殊構造のテープなどを生産することに。現在では、自動車やアパレルをはじめ、建築資材、医療、スポーツ用品など、多岐にわたる分野でさまざまな製品を製造している。一つの素材に特化することなく、綿やレーヨンなどの天然繊維から、ナイロン、ポリエステル、アクリルといった化学繊維まで幅広く対応できるのは、全国的にもかなり珍しいという。

新旧の織機を自在に操り 世界で一つの新素材を開発

さまざまな素材に対応できる高い技術力を持つ平織産業は、大手メーカーと特殊繊維の共同開発や試作を積極的に行っている。「新規の依頼があったときは、厚みや幅、素材、耐久性や耐光性などをお聞きます。屋外で使うならポリプロピレンは使わない方がいいなど、機屋の経験を生かし、アドバイスや提案をすることも少なくありません」と話すのは、代表取締役の平野喜久さん。例えば、袋状のテープを開発し、老朽化したガス管を修復するというガス会社のプロジェクトは、3年もの時間をかけ研究と試作を続けた。他にも、大手化学企業である東洋紡と高級素材の開発、ある工場では生産ラインを止めないために耐久性の高い特注ベルトを開発した。特殊繊維の強度を保ちつつ、できるだけ薄く織ってほしい、耐熱性を高めるために人造鉱物繊維のセラミックを織ってほしいなど、依頼は数え切れない。かつては問屋からの仕事が多かったが、30年ほど前から少しずつ直取引が増え、今では問屋の仕事とメーカーからの開発相談の割合は半々ほどになった。

平織産業では昔ながらのシャトル織機から最新のリニア駆動のニードル織機まで、多彩な織機を取りそろえ、用途に応じ使い分けている。小幅や広幅では織機1台につき

緯糸を通す杼口（ひぐち）は一つだが、細幅のシャトル織機は複数のシャトルを連動させ、それぞれ緯入れを行う。同社では、ゆっくりとしたスピードで織るシャトル織機で、テープ幅が途中で変わるテーパータープを製造。幅は最大で50mmほど。幅の変化にあわせ打ち込み本数を変えるなど、細かな調整が求められる。また、二重織りである袋織りや、その間に芯地を入れたもの、さらに厚みを持たせた織りも可能だ。ミユラー社製の最新式ニードル織機は、経糸（綜統）の動きや緯入れのスピードなどをコンピューターで細かく制御できる。織機の仕組み上、編み込み部分に段差ができてしまうが、それをできるだけ小さくするのが職人の腕の見せどころでもある。2本針や3本針による多層構造テープやポケット付きのテープなど、他社では見られない手間のかかる高付加価値テープを製造できるのも同社の特徴だ。



新しい感性を大切に しなやかに進化し続ける

現在の生産量は1台につき1日約1000m。ニードル織機は24時間稼働し、織機すべてを合算すると、1カ月で80万mから100万mになる。浜松市から札幌市までの距離よりも長い計算になるから驚きだ。2年前にホームページを立ち上げたことで、他産地の機屋が廃業し生産できなくなった企業から、新たな製造先として平織産業を頼る問い合わせが増えている。「今後は、提案型の企業を目指していきたいですね。3代目が入社して10年近くたちました。新しい発想や若い感覚を取り入れ、事業を続けられたらと思います」と展望を語る平野社長。2018年には生産設備の増強のため、新型の織機が並ぶ第2工場を新設。さらに近年では、自社製品の開発やネット販売をスタートさせ、新たなニーズを探り、顧客提案に生かしている。時代の変化にあわせ、しなやかに変化し続けることが平織産業の一番の強み。世代を超えて引き継がれる柔軟な企業姿勢でこれからも進化し続ける。

**綿などの天然繊維から、ポリエステルといった化学繊維まで
さまざまな素材を取り扱う高い技術力で名を知られる。**
**歴史あるシャトル織機と、最新のニードル織機を操り
研究と試作を重ね、大手メーカーと新素材を開発する。**
あくなき探究心と培った技術力で細幅織物の未来を拓く。



OFFICE DATA

〔代表者〕 代表取締役 平野喜久
 〔創業〕 1948年 〔設立〕 1976年
 〔資本金〕 1,000万円
 〔従業員〕 8人
 〔住所〕 〒434-0041 浜松市浜北区平口 1558
 〔TEL〕 053-587-7117 〔FAX〕 053-587-6611
 〔INFO〕 08:00～17:00 休 土・日・祝・夏季・年末年始
 〔MAIL〕 hiraori@nifty.com
 〔HP〕 <https://www.hiraorisangyo.jp/>

● 問い合わせ担当者：平野明史

取材に応じてくれた兄の「明史」さんに続いて、弟の「浩二」さんも入社。兄弟で力を合わせてさらに事業を盛り立てていく。

事業内容 商社向けの細幅織物製品の製造販売

製造品目 産業資材用テープ、自動車産業用テープ、カーテンテープ、カバン用ベルト、医療用テープ、スポーツ用品用テープ、アパレル用テープ、テーパータープ

製造品用途 産業資材、建設資材、自動車内装部品、カーテン、カバン、アパレル、スポーツ用品、ストラップ

取扱素材 綿、レーヨン、混紡、アクリル、ポリプロピレン、ポリエステル、ビニロン、新素材、人絹、ナイロン、ポリエチレン、スーパー繊維

設 備		
ニードル織機	細幅織物の製造	13台
電子制御ニードル織機	より複雑な細幅織物の製造	3台
シャトル織機	昔ながらの細幅織物の製造	8台
カット機	細幅織物の切断	2台

決済方法 銀行振込・現金(月末締め翌月末払い)

繁忙期 特になし

その他 見学可



会社紹介にも記載してありましたが、平織産業さんでは多彩な種類の製品を作り出すことができます。それは長い時間をかけて、多くの種類の糸でテープを織ってきた歴史があるからだと思います。そして、「昔からこれだから…」ではなく、「昔はこうだったけど…」と過去の経験を活かし、その時その時の時代にあるニーズに全力で応えていった結果だと思っています。“keep going”過去の経験を活かしていくことで新しい経験をしていく、まさに常に進化している会社です。

株式会社白都商店 / 専務取締役 白都正洋





RECOMMENDED

テーパータープ

最小ロット：試作から可(1m)

納期目安：1～2カ月

一般的なテープと違い幅を途中で連続的に変えることができる。



カーテンテープ

最小ロット：試作から可(1m)

納期目安：1～2カ月

緯糸を2～3本針で織ることでフックを掛けるポケットを付けることができる。電子制御なので複雑な組織やリピート数が自在である。



二重織テープ

最小ロット：試作から可(1m)

納期目安：1～2カ月

通常のテープを上下2層構造で織ることができる。結合部分と離れた部分が混在したループ状のテープが織れる。



【事業者紹介】

06

COMPANY
PROFILE

歴史に学び
未来をつなぐ
懸け橋

丸忠細巾織物工場

(上) 薄さを得意とするカーテンテープ / (下) 珍しい2段のシャトル織機

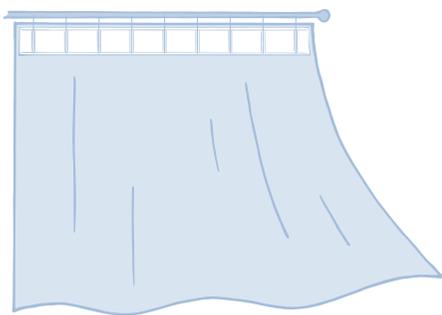


閑散期の副業から始まった 漁師町・吉田の細幅織物

大井川の西岸に位置する吉田町。古くから織物業が盛んで、焼津港が整備されるまでは漁業の集積地として栄えた。「3代前はカツオ節を作る加工業をしていました。工場の敷地は、カツオの生けすだったんですよ」と話すのは代表の柳原寛幸さん。その後、漁業の拠点が焼津に移り、加工業は廃業。広幅機屋を営む親戚がいたこと、さらに、細幅織機を譲り受けたこともあり、1951(昭和26)年に織物業を始めた。

柳原さんによれば、細幅織物はその昔、農業や漁業の閑散期の副業として、また、夫の帰りを待ち、家を守る女性が内職感覚で始めることが多かったそう。広幅織機と比べ機械も小さく、作業小屋の一角で始められるなど、導入コストが安くすむメリットもあった。広幅の反物を縛るひもやカーテンテープ(※)といった需要も後押しし、1980(昭和55)年頃には丸忠細幅織物工場も最盛期を迎えた。しかし、イラン・イラク戦争の影響によってカーテンの輸出が禁止。さらに、国内でも住宅用カーテンの需要が落ち着き、売上げは激減。最盛期には150社ほどあった織物工場は、現在5~6社ほどになってしまった。

※カーテンレールに付けるフックを取り付けるポケットがついた芯地



織機の使い分けが生み出す 良質で高単価なカーテン芯地

丸忠細幅織物工場には、昔ながらのシャトル織機が20台あり、今も現役で活躍している。最新のニードル織機と比べ回転はゆっくりだが、糸に負担がかからないため細い糸を使い、薄い生地を織ることができる。風合いが良く、コシがある生地は、シャトル織機ならではの特徴だ。一方でニードル織機は、生地の片方が編み物になるので耳部分にどうしても段差が生まれ、カーテンの縫製がしにくいというデメリットもある。しかし同社では、ニードルの位置を0.3mmの細かさで操る経験値を基に、糸にテンションを

かけたり、織るタイミングをずらしたりすることで、耳を限りなくフラットに仕上げられる。それぞれの織機の良さを生かし、用途に応じ使い分けている。現在の取引の割合は、インテリア系が50%、資材系が50%になる。近年では一体縫製のカーテンが増え、カーテンテープの需要は減っているが、オーダーカーテンを作るときに欠かせないため高級品として扱われている。

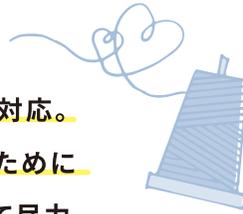
「シャトル織機の躯体は鋳物でできていて、職人が手作業で作ったもの。ピアノを製造する浜松の鋳物技術の影響もあってか、曲線がとても美しく、色気を感じるほどです」と柳原さんが笑う。シャトル織機だけでなく、今では現存しないメーカーのドビー装置、ベルトを使った複動式、遠州でも珍しい複数の緯入れが2段になったシャトル織機など、ビンテージな織機や機械が所狭しと並び、まるで織機の博物館のよう。インチ、メートル、ヤードなどの単位が混在する年代ものの古い織機のメンテナンスは大変で、それを理由に廃業する人もいるそう。柳原さんは前職でエンジニアだった経験を生かし、機械の設計図を描き、パーツを発注できるから、なんとか続けていると言う。

細幅織物をずっと守るために 世代をつなぐ懸け橋になる

少年時代、父親と一緒に取引先のある浜松へ毎週のように通っていた柳原さんにとって、ぶっきらぼうだが人情味あふれる職人や、工場が持つものづくりの雰囲気や、今も忘れられないと話す。「織機の技術からオートバイの開発につながり、木工加工から楽器産業などへ発展したように、繊維産業は“ものづくりのまち・浜松”のアイデンティティだと思うんです。だから繊維産業がなくなることに強い危機感を覚えます。そのためには、自社だけが良ければいいという発想ではなく、同業者や外注先、さらに織機の保守・販売をする機料屋なども含めて考える必要があります。一つでも欠ければ、廃業の連鎖が起きてしまいますから」

ゆっくり動くシャトル織機は意外と安全で、汚れも少なく、繊維業の労働環境は決して悪くない。時間の自由も大きいため、不登校児などの社会復帰支援や障がい者就労、子育てに忙しいママなど、多様な人たちが働く受け皿になれるのではと柳原さんは考える。工場をオープンにすることで生まれる横のつながりや、人との出会いが、新しい細幅織物のアイデアにつながるかもと期待を寄せる。「この業界は下請け感覚が抜けず、殻にこもりがち。だからこそ、地場産業としての繊維をもっと情報発信する必要があります。先人たちも高齢になり、今が最後のチャンス。私は昔の繊維産業を知っている最後の世代。上の世代の知識や技術を下に伝える橋渡しができればと思っています」

20台もの年代もののシャトル織機を使い
高品質なカーテンテープなどを生産する。
糸の手配から織り、加工、梱包、発送まで対応。
細幅織物にとどまらず、織物業界の未来のために
熟練職人と若い世代をつなぐ、懸け橋として尽力。



MARUCHU HOSOHABA ORIMONO KOJO



OFFICE DATA

【代表者】 代表取締役 柳原寛幸
 【創業】 1951年
 【従業員】 3人
 【住所】 〒421-0301 榛原郡吉田町住吉2466
 【TEL】 0548-32-1562 【FAX】 0548-32-8011
 【INFO】 08:30～17:30 土・日・祝・夏季・年末年始
 【MAIL】 maru-tune@tokai.or.jp
 【HP】 なし
 ●問い合わせ担当者：柳原寛幸

アウトドアやキャンプが好きな柳原社長は、ガスランタンのマントルに細幅織物を使えないか研究中。斬新なアイデアで完成も間近!?

事業内容 糸手配から織・後加工・外装包装作業・全国出荷まで

製造品目 厚地・薄地テープ

製造品用途 インテリア、カーテン、自動車産業含む産業資材、服飾

取扱素材 綿、混紡、ポリエステル

設備		
ニードル織機		6台
シャトル織機		20台
ヒートセット機	織り上がり商品をアイロン掛け	2台
経糸整経機	シャトル織機の経糸を巻き取る	3台
横巻き機	シャトル織機の緯糸を巻き取る	6台
ワインダー機	糸を巻き分ける	1台
仕上げ機	テープを丸巻きに巻き取る	5台



決済方法 手形、でんさい、銀行振込み、現金 **繁忙期** 1月～12月頃 **その他** 見学可・採用募集中



弊社所有の殆どの織機や関連機器はmade in浜松。
 各種織物にあわせた独自の進化を遂げた細幅織機が多く発明製造されました。
 例えばドビー付きシャトル織機は、杼(ひ)・杼箱には木材の、ドビー・シャシー・
 回転シャフト・クランクには鋳物金属加工の、箆(おさ)にはリードの、それぞれの
 部品全てに多くの職人の知恵と技術が込められております。豊田自動織機・
 スズキ式織機から今に続く浜松工業技術の枝葉の一枚かもしれませんね。





RECOMMENDED

カーテン芯地

高級品種
両端の手触り
縫製のしやすさ



フラットカーテンテープ

平面的なカーテンのフック用テープ。
自由なフックレイアウトに
向いています。



カーテンフックテープ

プリーツが簡単にできる
ロングセラーフック用テープ。
DIYにも使えます。



綿平織テープ

薄物をきれいに織ります。



【事業者紹介】

07

COMPANY
PROFILE

業界を牽引する
イノベーター

本橋テープ株式会社

(上)カラーバリエーション豊富なテープ / (下)ショールーム&ショップ



オリジナル商品は100以上 暮らしを豊かに彩る細幅織物

本橋テープの本社工場前にある、杉板の外観がおしゃれなショールーム&ショップ。店内には、カラーバリエーション豊富な編み込みバッグやハンモックチェア、キャンプ用グッズなど、同社が手がけるさまざまなオリジナル商品がディスプレイされている。商品開発を始めたのは2000(平成12)年。「細幅織物のテープをもっと多くの人に知ってほしかったから。テープと聞いても、思い浮かべるのは粘着テープでしょ」と笑う代表取締役の本橋真也さん。カバン用に開発したループがいくつも付いたテープは、ループ1つにつき耐荷重30kgと強度を高め、キャンプでシェラカップやランタンなどをつり下げられる「タフフック」を開発。アウトドア好きな社長のアイデアだ。他にも、手編みの機織り機を使って編み込んだナイロンテープ生地のハンモックチェアは、テープならではの丈夫さと適度な伸縮性が心地よいと人気。自社内に縫製などの加工部門を設け、アイテム数は100を超えた。織物工場でありながら、ここまで質の高い商品を作れるのかと業界内外の評価も高く、アパレルやアウトドアメーカーとのコラボ商品も生まれている。

「アパレルから日用品、産業用資材など、あらゆる場所で使われる細幅織物は、かつて『雑品』と呼ばれていた時期がありました。その言葉が本当に嫌いで(笑)。生活、仕事、遊びなど、さまざまな場面で使われる『テープ』が新たな役割を持つ、大事な素材として『商品や暮らしをサポートする』のが私たちの使命です」と本橋社長が同社の役割を語る。

変わり続けることを選び 自社の企業価値を上げる

1962(昭和37)年、「本橋テープ工場」として創業。俗に言うストラップ屋さんとして、カメラや水筒などのストラップを手がけていた。その後、カバンの持ち手などの生産に切り替わり、今では、業界シェア率60%~70%を誇る。1989(平成元年)年には下請けからの脱却を目的に、吉田町内の同業者と製造の専門会社「静岡繊維工業」を設立。2000(平成12)年当時には業界内に4社ほどしかなかったホームページを開設し、新規開拓に取り組んでいった。さらに、中小企業庁が進める「経営革新計画」に応募し、「付属品(テープ)メーカーから完成品をメーカーに提案する新分野への進出」(2007年)、「伸縮可能で強度を併せ持つループ付き多機能性細幅織物『ルーティール』の開発販売」(2013年)が承認された。「問屋中心から小ロット在庫の対応」、「企業の部材中心から、最終製品を含んだ消費者向け商材

の拡充」へと、自社の強みを生かし、新たな事業領域の開拓にも積極的にチャレンジしている。他社の多くが3000mから受注するのに対し、同社では50mからの小ロットに対応。別注テープPP(ポリプロピレン)なら頭出し(分納の初回納品)まで3日、ナイロンやエステルウーリー(定番色)は1週間と、短納期にも応える。さらに同社の変革はとどまらず、2020(令和2)年には、「細幅テープを通じて楽しみながら学べるコンテンツの企画提供と販路開拓」で3回目の経営革新計画が承認。「TAPE KITシリーズ」の開発、テープを使ったものづくり講座など、同社の事業領域は体験や教育にも広がっている。



従業員のやりがいを育てる経営 自社と業界の持続的な発展を目指す

本橋テープでは今後も事業を継続させるための、さまざまな取り組みを行っている。例えば、織り工場を分散させるなど、災害や緊急時の被害を抑え、事業の継続や早期復旧を図る事業継続計画(BCP)を策定。今後は自社で染色も行う予定で、織りから縫製、染色加工、製品仕上げまで、一貫製作の強化にも努める。また、早くから男女共同社会参画社会づくりを宣言し、男性しかできない仕事を減らしている。現在の男女比は、1対2と女性が多い。平均年齢は44.4歳と比較的若く、後を継ぐ人材も育っている。「アウトドアが好きなのですが、挑戦を認めてくれ自分の好きなものを仕事につなげられるので働いていて楽しいですよ」とクリエイティブグループ サブマネージャの大石さんも転職での入社。新製品の企画開発やSNS運営、小売店との対応など幅広い業務をこなす。

取材していると、どの部署の方も雰囲気明るく、やりがいを持って仕事に取り組んでいる。この15年間で社員は11名から45名に増え、長く、働きやすい環境であることが分かる。他にも、県内のものでづくりメーカーと共同したり、障がい者の就労支援を行ったりと、地域と関わりながら業界の発展にも寄与している。これらの一連の活動が評価され、本橋社長は2019(令和元年)年、藍綬褒章を受章。「異端児と言われたこともありましたが、業界の方々が喜んでくれたのがうれしかったです」。自社を超えて細幅織物のブランディング、業界全体の地位向上に取り組む同社の変革は続いていく。

幅5mm～100mmまでの細幅織物を製造。

2000種類以上の定番在庫を持ち小ロット短納期対応を得意とする。

テープから完成品まで一貫生産でき、ハンモックチェアやカバン、

アウトドアグッズなどの自社商品も人気で、企業コラボへ発展。

地域を巻き込みながら、業界の発展にチャレンジし続ける。

会社や仕事の好きなところ

アーティストやブランドとの商品開発、フェスやイベントの出店、ウェブでの情報発信など、テープの価値向上のために柔軟に取り組む姿勢が弊社の魅力。



OFFICE DATA

- [代表者] 代表取締役 本橋真也
- [創業] 1962年1月1日 [設立] 1986年5月10日
- [資本金] 1,000万円
- [従業員] 45人
- [住 所] 〒421-0301 榛原郡吉田町住吉3216-5
- [TEL] 0548-32-2567 [FAX] 0548-32-2735
- [INFO] 08:00～17:00 休 土・日・祝・夏季・年末年始
- [MAIL] motohashi-tape@ny.tokai.or.jp
- [HP] <http://www.motohashi-tape.co.jp>

● 問い合わせ担当者：大石卓哉

体験型工場見学やコースター作り講座など、テープを身近に感じられるイベントを定期的開催。

事業内容 細幅織物の製造、縫製・溶着・裁断などの2次加工、テープを使った小物の企画販売

製造品目 厚地、薄地の化学繊維の細幅織物を得意としています。

製造品用途 カバン・袋物、ペット用品、健康グッズ、耐震グッズ、家具、衣料身の回り品、アウトドアグッズなど

取扱素材 アクリル、ポリプロピレン、ポリエステル、新素材、ナイロン

設 備		
ニードル織機	厚地・薄地用織機、ジャガード織機	10台
コンピュータミシン	パターンをプログラミングし、複雑な縫製を量産する時に使用	3台
薄地用工業ミシン	薄い生地を縫う時に使用	1台
厚地用工業ミシン	厚い生地を縫う時に使用	1台
アーム型ミシン	筒状のものを縫う時に使用	1台
超音波カット機	穴あけやR型のカットをする時に使用	2台
超音波溶着機	超音波での溶着加工に使用	1台
半自動カシメ・ハトメ機	カシメ、ハトメなどの打ち付けに使用	5台

決済方法 銀行振込・現金(月末締め翌月20日まで) **繁忙期** 11月～3月頃 **その他** 英語可・見学可・採用募集中



2014年に立ち上げた、アウトドアブランドを運営しております。弊社の主力アイテム「Tarpシリーズ」の部材を含め、バッグなどさまざまなアイテムの魅力を引き立てる重要な部材を供給いただいております。本橋テープさんの製品は、見た目の美しさ、手に触って分かる品質の良さはもちろんのこと、小さなブランドである我々の要望にも細やかに対応してくださり、とても感謝しております。

sunsetclimax inc. / 代表取締役 浦田孝典





お洒落な本社工場と
ショールーム&ショップ

RECOMMENDED

ルーティー

金額目安：ロットによって異なる

最小ロット：50m～

納期目安：約2週間

テープの片側に紐を織り込み、強度を持たせることで、アウトドアやインテリア用材として使用されています。
※特許取得商品



TOUGH HOOK

金額目安：1,200円

最小ロット：1個

納期目安：即日～2週間

ルーティーを使用したデジチェーンです。アウトドア用品として、テントやタープ内でランタンなどを吊るして使用します。



TAPE KIT

金額目安：1,000円～3,000円くらい

最小ロット：1個

納期目安：即日～2週間

自分でYouTubeの動画を見ながら作る教育用材です。完成品をイメージしながらいろんな色を組み合わせることで想像力を養うことができます。



リサイクルナイロンテープ

金額目安：ロットによって異なる

最小ロット：50m～

納期目安：約2週間

ナイロン製品を石油に直し、再度糸にしたもので織ったテープです。弊社のサステナビリティの取り組みの一環です。



一升瓶ホルダー

金額目安：3,000円

最小ロット：1個

納期目安：即日～2週間

インパクトのあるネーミングの通り、一升瓶を背負うためのショルダーベルトです。イベントでの注目間違いなし、ショルダーストラップには反射材を織り込んでいるので、夜間でも車にひかれることはありません。



拵(こしらえ)トート・リュック

金額目安：8,000円～20,000円くらい

最小ロット：1個

納期目安：約1ヶ月

PPテープを手作りで編み込んで作られたカバン。ネットショップで、自分自身でデザインをし、一個からのオーダーが可能です。



【事業者紹介】

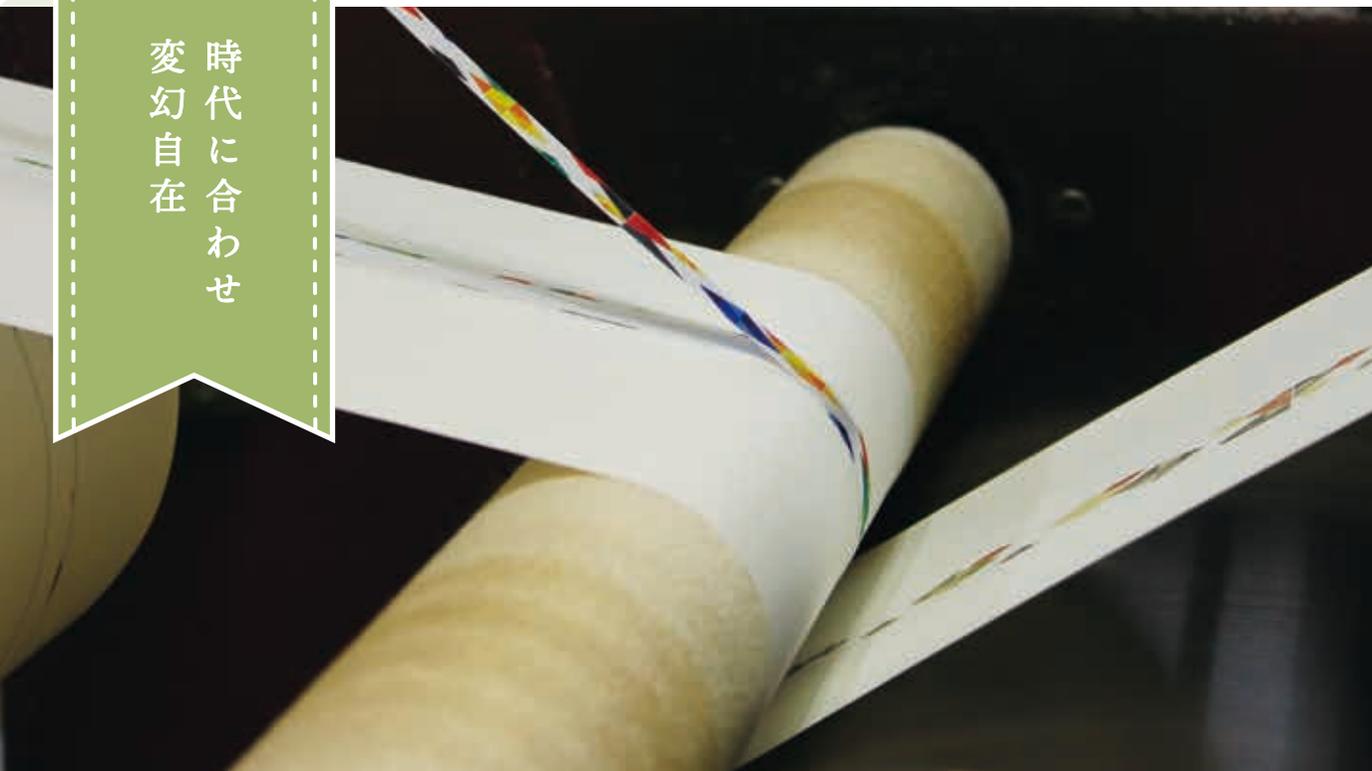
08

COMPANY
PROFILE

時代に合わせ
変幻自在

新日本繊維機器販売株式会社

(上)昇華転写プリント / (下)元々は100台ほどあったニードル織機



中国工場でストラップを生産 価格競争に負けないものづくり

「最終製品のことを知らないと、ものづくりはできない」。新日本繊維機器販売の代表取締役である豊田博一さんが、取材中に何度もなく発した言葉だ。同社では、国内だけでなく、中国の工場と取引を行い、ネックストラップなどの細幅織物を手がけている。きっかけは15年ほど前、組合の視察で上海の展示会を訪れたこと。活気あふれる中国を目の当たりにして、仕事を始めたいと思ったそう。提携工場を探すため、観光ガイドと指定の場所に行く工場がなかったり、こちらの求める技術に達していなかったりと苦労もあった。現在は2つの工場を使い、ネックストラップの8割を中国で生産している。工場へ糸や織りの指示を出し、織り上がった生地(テープ)を日本へ発送。浜松の自社工場ですりやカット、縫製といった加工を行い、完成品として納品する。「今まで自社でストラップを作っていましたが、価格競争や付加価値付けに頭を悩ませていました。今後も生き残っていくためには、パーツ(部材)ではなく、完成品まで手がけたいと感じていたタイミングで中国との取引が実現しました」

創業は1943(昭和18)年。当初はゲートルを製造していたが、戦後は細幅織物に移行。最盛期には、専属下請け6社、100台以上の織機を抱えていた。また、1972(昭和47)年から15年間ほど、国内メーカーの織機販売をしたこともあった。先代が倒れ、まだ学生だった豊田社長が入社。22歳だった。30歳で会社を引き継ぐと、織機を減らし、大量生産から加工にシフトした。現在は問屋や商社、企画会社などを顧客に、ストラップや衣料用資材などを生産している。



ニーズを知ることから始め お客様の求める「良いもの」を提供

SNS映えが重視されるなど、良いものを作っても、必ずしも売れるとは限らない時代。では、「良いもの」とはどのようなものなのか、豊田社長に尋ねた。「定義はニーズによって変わります。だから、お客さんが何を求めているか『知ること』が重要。われわれはもっと最終製品のことを知るべきで、どのような目的で使われるか知らないと、

こだわり所がずれてしまう」と答える。ポールパーティションのベルトを織る仕事では、取り付け先のパーティションの構造や仕組みを徹底的に研究。最終的にベルトだけでなく、パーティション一式を受注した。ネックストラップも、ニーズを知らなければ1日だけのイベントで使うのか、社員証として使うのかで求められるものが違う。職人がこだわって織ったけれど、お客が求めていたのは品質よりコストや納期だったというずれも起こってしまう。「良いものを作りたいなら、流通経路は短いほどいい」と豊田社長は言う。「みんなで協力して作ることもあるけれど、数が多いとニーズが正しく伝わらない場合も多い。だからうちは、工場へ直接指示を出し、自社で完成品まで仕上げるスタイルを取っているんです」

中国工場の品質管理には、新日本繊維機器販売のものづくりのノウハウが役立っている。同社ではストラップの印刷に昇華転写プリントを使っている。素材やデザインに合わせてデータの作り方を変えろといった、ひと手間を惜しまない。1cm幅のストラップにメジャー(目盛り)を印刷する仕事では、海外に依頼すると1mで3cmもずれたが、同社は5mで1mmずれるかどうかという精度だった。他にも、高品質のサンプルを送り、数字などを使い具体的に指示を出すことで、中国製でも十分品質を管理できると話す。

これまでの枠組にとらわれず 新しいものづくりの可能性を模索

2020(令和2)年は新型コロナの影響でイベントの中止が相次ぎ、イベントストラップの発注は0本だった。多角化しないと生き残れないと、4月からはマスクのゴムひもを生産。多様化するニーズに応えるため、3種類の太さと47色とを用意。さらに、マスクを消毒したいという業者の要望から派生し、消毒噴霧器を中国で生産している。また、中国工場での製造経験や管理ノウハウを買われ、ホテルで使う洗面鏡も手がける。「織屋じゃない、と言われることもありますよ(笑)。ただ、ものづくりにはこだわりたいし、取り扱うものが変わっても、ベースは繊維。他分野での経験を繊維にフィードバックできますから。先代たちが時代の変化に合わせて変わっていったように、業界内に閉じこめるのではなく、新しい分野を切り開いていきたいですね」





RECOMMENDED

マスクひも

金額目安: 18円/m~

最小ロット: 10m~

納期目安: 在庫品

3種
47色



ボールパーテーション

金額目安: 4,800円~

最小ロット: 1個

納期目安: 在庫品

オリジナルの
プリントが入られる。



転写プリント

ネックストラップ、キーホルダー、タベストリー
靴ひも、犬のリード、リボン、ベルト、テープなど

プリント範囲/幅: 6mm~320mm 長さ: 30000mm

様々なメーカー・企画会社様の
OEM実績がございます。



消毒噴霧器

金額目安: 50,000円~

最小ロット: 1個

納期目安: 在庫品



エンキラダ 猫専門のペット用品製造販売

首輪、キャットタワー、キャリーバッグ
餌トレイ、ケージ、猫のおもちゃ
爪とぎ、ハンモックなど

(令和3年3月より発売)



【事業者紹介】

09

COMPANY
PROFILE

糸から開発し
アイデアを実現

株式会社白井繊維工業社

(上) ずらりと並ぶニードル織機 / (下) 組ひもを作る製紐機



時代の流れを敏感に読み取り 細幅織物の新しい使い方を探求

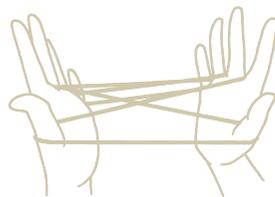
白井繊維工業社を訪れると、入口に並んだ観葉植物のプランターが、イエローやピンク、ブルーといったカラフルなテープでデコレーションされていることに気が付く。受付では、毛糸の代わりにナイロン製やアクリル製のひもで編まれた動物のぬいぐるみが出迎えてくれる。「どれも、スタッフのアイデアを形にしたものなんですよ。編みぐるみは小売店でも販売しています」と、取締役の白井康生さんが教えてくれた。自分たちが作ったテープやひもの新しい使い方を考え、実践する。「提案型の織物メーカー」を掲げる同社ならではの社風を垣間見たようだった。

創業は1950(昭和25)年。創業者の白井桂吉が自ら商品を持って東京や名古屋、大阪、奈良へ赴き、商いを始めた。当初は布団のシーツやまくらを縛る薄いテープ、包帯などを生産していた。時代が天然繊維から化学繊維へと変わることになり早く気づき、1967(昭和42)年に高速ニードル織機を大量導入。生産の効率化と量産化に成功した。その後も、製紐機や延伸ヒートセット加工機などを導入し、お客の要望に応えるべく、研究開発を進めていった。1日あたりの生産能力は、ニードル織機で5万m、ジャカードニードル織機は5000mあり、カバンの持ち手やベルト、車の内装品、手芸用品などを扱っている。取扱品目は素材や厚みの違いで300種類ほど、カラーバリエーションを含めると1000品目を数えるという。

素材への深い知識が可能にする オリジナル糸や新商品の開発

白井繊維工業社の特徴の一つは、糸メーカーと共同でオリジナルの糸を開発していること。糸の中が空洞になった「中空糸」というオリジナル糸は、もともと浄水器のろ過フィルターとして開発したものだ。従来品より20%ほど軽くなった。髪の毛よりも細い「三芯中空糸」は、中にY字状の軸が入ることですづれにくい構造が特徴。従来品より25%軽く、少しでも軽さを出したいカバンや自動車のパーツとして使われている。2020(令和2)年には、抗菌性の高いポリプロピレン糸とアクリル糸を開発した。10回以上洗濯しても機能が持続することから、テープやひもだけでなく、スポーツウエアやワーキングウエア、介護などのケア商品、日用品など、幅広い分野での利用を想定している。10年ほど前からは、社名などを織り込めるジャカード織に特化したオリジナルストラップの生産をスタート。織りだけでなく、裁断から縫製、仕上げまでを自社内で行い、20本からの小ロット販売にも対応。イベントやノベルティ用として人気だ。

テープやひもなどの自社製品を使った商品開発にも意欲的で、企業のオリジナル商品も手がけている。「今は低価格な海外製品が一般的ですが、品質が悪かった、指定したものと違って、納期が間に合わなかったといった声を聞くこともあります。弊社では、使用用途や強度、耐光性などの条件をヒアリングし、生産から納品まで一貫して手がけることで、個社ごとに合わせた満足いただける商品をご提案しています」と話す白井さんから、これまで培った経験と技術力に自信があることを感じられた。「先日も老人ホームから問い合わせがあり、オリジナルのあやとりひもを開発しました。ナイロンを使うことで丈夫で、適度な伸縮性もある。ひもの両端を溶接しているので、つなぎ目がなく手触りも良いと喜ばれています」と目を細めた。



消費者のニーズを探り開発した オリジナル商品で勝機をつかむ

業界では珍しく、問屋からの仕事だけでなく、創業当時から、自ら製造し販売するスタイルを取っていた白井繊維工業社。50年以上たった今も、在庫を保有し、サンプル帳を見せながら営業販売する姿は変わらない。「織物の生産が海外に移り、国内の生産業も厳しい状況にある中、付加価値のあるものづくりが求められています」と危機感をつのらせる白井さん。今後は、直接ユーザーに販売する「D to C(工場から消費者)」に力を入れていきたいと話す。現在、縫製工場と一緒にカバンやファッションベルトを試作中で、完成も間近だという。オリジナルストラップを扱う同社のネットショップ「アゲハ」では、消費者の声を集め、製品作りに生かしている。最近では、ベルトやカバンなどの最終製品も社内アイデアで開発中。ひもやテープの可能性を探り続ける同社から、今後どのようなアイデアが生まれるか楽しみでならない。



織りから加工、仕上げまで自社工場で一貫生産し

大量生産から、多品種小ロットまで対応する。

綿などの天然繊維や多様な化学繊維の知識を生かした

オリジナルの糸や、カバンなどの自社商品を開発。

顧客のニーズに応える提案型織物メーカー。



OFFICE DATA

- [代表者] 代表取締役 白井久仁彦
- [創業] 1950年4月 [設立] 1966年10月3日
- [資本金] 3,000万円
- [従業員] 9人
- [住 所] 〒430-0814 浜松市南区恩地町450
- [TEL] 053-425-3449 [FAX] 053-425-4356
- [INFO] 08:30～17:30 休 土・日・祝・夏季・年末年始
- [MAIL] info@shiraiseni.jp
- [HP] http://www.shiraiseni.jp

● 問い合わせ担当者：白井康生

足袋の上から膝下に真田ひもなどを巻く「血止め」、飛脚がうっ血防止に始めたとか。今では足元をおしゃれに飾る祭りの定番アイテム。

事業内容 糸の手配から製織をし、染色などの後加工は外注にて手配し製造販売

製造品目 厚地・薄地テープ、ジャカード織テープ、組ひも

製造品用途 靴の持ち手、ファッションベルト、車の内装品、靴ひも、真田ひも、エプロンひも

取扱素材 綿、レーヨン、混紡、アクリル、ポリプロピレン、ポリエステル、ビニロン、ナイロン

設 備			
ニードル織機	細幅織物を織る機械		70台
ジャカード織機	ジャカード織にてテープを織る機械		5台
製紐機	組ひもをつくる機械		150台

決済方法 銀行振込・現金(月末締め翌月末払い)

繁忙期 9月～3月頃

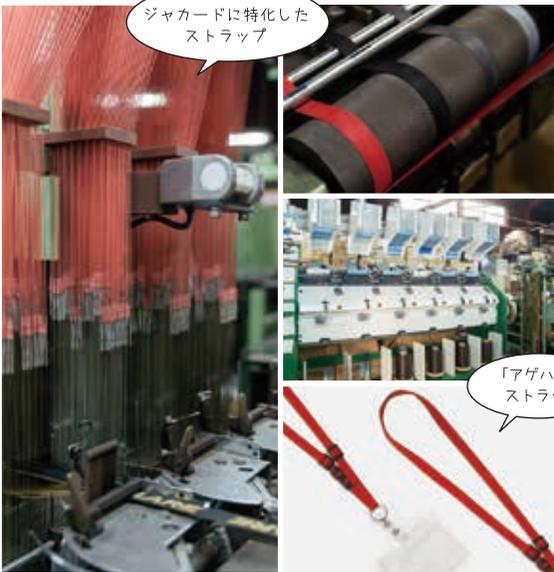
その他 採用募集(ホームページよりご覧ください)



弊社は、染色業として3代続く会社を営んでおり、アクリル繊維を中心に綿・ナイロンなど糸染・加工染を行っております。当初は、糸カセのドブ染めから始まり、現在は、チーズ染色機やカセ染色機で染色をしております。古くからのお得意様である、白井繊維工業社様の前向きな新しい仕事や企画に、ともに挑戦させていただくことで進化をさせていただいております。白井繊維工業社様の行動力、仕事に対する姿勢には一目を置かせていただいております。

山本染色株式会社 / 代表取締役 山本直嗣





RECOMMENDED

★印は弊社オリジナル商品です。

ジャカード織テープ

金額目安：見積りします
 最小ロット：1000m～
 納期目安：相談します

テープの表や裏に文字や模様などの絵柄を糸によって織り出すことができます。印刷と違い高級感があります。



★ アクリル抗菌糸

金額目安：見積りします
 最小ロット：見積りします
 納期目安：相談します

アクリル素材に抗菌剤を練り込み、紡績工場にて糸に仕上げられています。(後加工ではありませんので洗濯しても効果は落ちません)



★ ポリプロピレン抗菌糸

金額目安：見積りします
 最小ロット：見積りします
 納期目安：相談します

PP素材に抗菌剤を練り込みフィラメント糸に仕上げられています。(後加工ではありませんので抗菌性能が継続します)



ナイロン中空糸

金額目安：見積りします
 最小ロット：見積りします
 納期目安：相談します

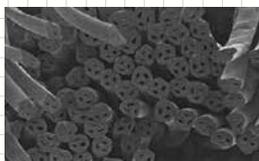
従来のナイロン糸よりも、20%ほど軽く仕上がります。



★ PP中空糸(スマイル)

金額目安：見積りします
 最小ロット：見積りします
 納期目安：相談します

従来PP糸よりも、25%ほど軽く仕上がります。強度は変わりません。



組ひも・江戸打ちひも

金額目安：見積りします
 最小ロット：見積りします
 納期目安：相談します

ACIは、5種類の太さで36色のカラーがあり、江戸打ちひもは、4種類の太さで30色を在庫しております。



【事業者紹介】

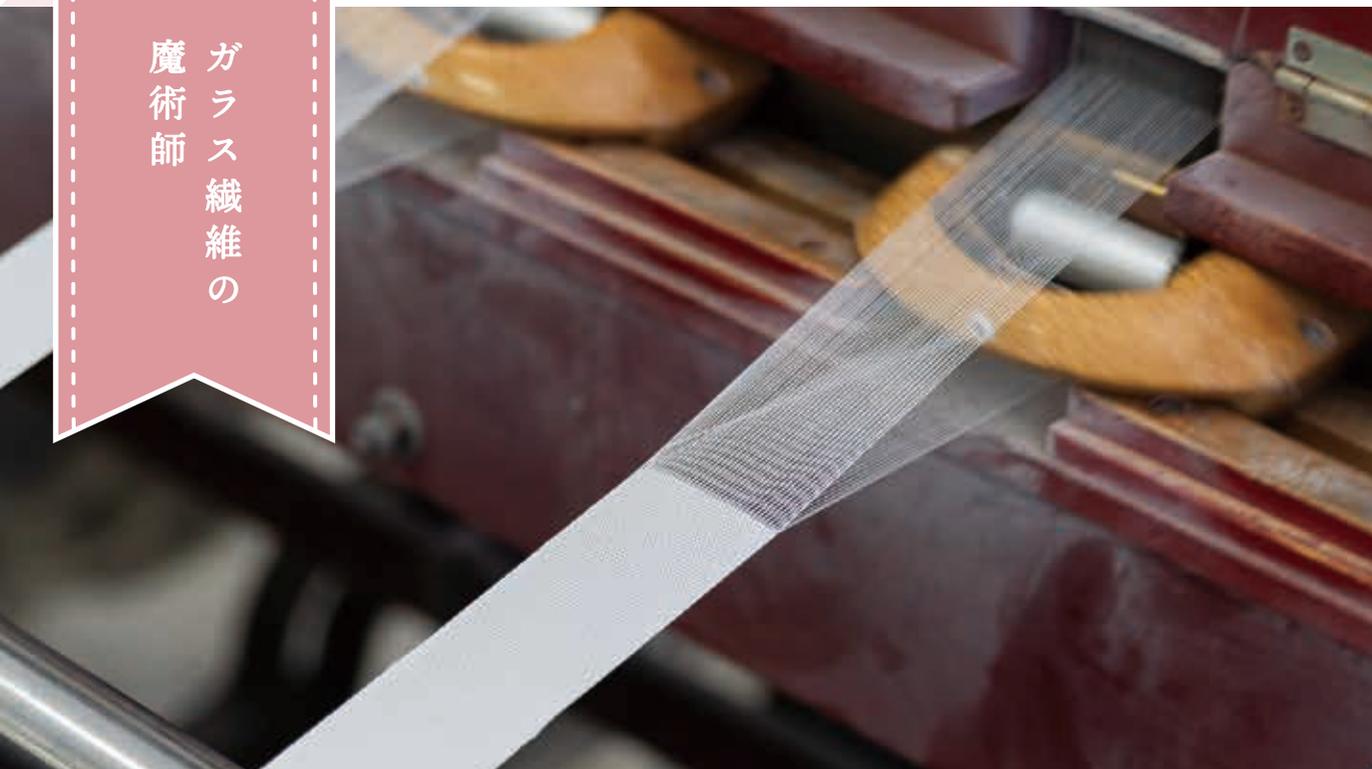
10

COMPANY
PROFILE

ガラス繊維の
魔術師

東陽機業株式会社

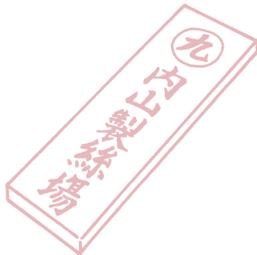
(上) ガラス繊維専門の織機 / (下) リング式の撚糸機



120年間に製糸(絹)、燃糸、織物を渡り歩き ガラス繊維に特化した老舗織物工場

東陽機業の歴史は古く、およそ120年前の1900(明治33年)年頃、初代・内山九吉が今の湖西市鷺津で製糸(絹)を始めたことにルーツを持つ。1920(大正9)年頃、2代目社長である内山重吉が「丸九内山製絲場」として本格的な絹の製糸を行った。トヨタグループの創始者である豊田佐吉とも交流があり、湖西市の歴史をまとめた『湖西風土記文庫 語り継ぐ』にもエピソードが記されている。今のJR鷺津駅前に本社工場を構え、最盛期には300人もの工員を雇い、宮崎製糸鷺津工場と並び、西遠地区の双璧と評されるほどだった。昭和に入ると、アメリカに端を発した世界恐慌や太平洋戦争の影響もあり、蚕糸業は急速に衰退。丸九内山製糸も廃業することになった。

戦後は、「丸九内山燃糸合資会社」として燃糸業を始め、1950(昭和25)年には、広幅織物や細幅織物で畳縁テープを製造する「東陽機業」として再編設立。転機となったのは、ガラス繊維。紡績会社やガラス板メーカーからの誘いもあり、1963(昭和38)年、ガラス繊維を使った細幅テープの生産をスタートさせ、現在はテープ生産量の80%をガラス繊維が占めるまでに成長した。



日本でわずか5~6社だけ 高品質なガラステープを生産

ガラス繊維は一般的なガラスと同じ珪砂(けいしゃ)、ソーダ灰、石灰石を主原料にし、糸状に紡糸したもの。絶縁性に優れ、約200度の耐熱性があり、燃えないため、産業用資材として使われている。工業用大型モーターのコイルの絶縁体に使われていた綿やアスベストの代用品の他、大型客船の暖房用としてお湯を流す配管の保温の断熱テープ、変圧器などにも使われている。ナイロンやアクリルなどの糸と比べると値段は高いが、アラミド系新素材(スーパー繊維)と比べコストを抑えられるのも選ばれる理由の一つだ。

引っぱりには強いが、力を入れると折れてしまうため、ガラス繊維を織るためにはそれなりの技術力が求められる。また、乾燥時の静電気や梅雨時の湿気対策など、繊細な温湿度管理も重要だ。東陽機業では、シャトル織機を使い

ガラス繊維を織っている。織り続けることで織機が摩耗してしまうため、日々のメンテナンスが欠かせない。「ガラス繊維でテープを織っているところは、日本で5~6社もいません」と話すのは代表取締役、内山悦二さん。厚さは0.1mm、0.13mmを中心に、0.3mmまでの6種類を用意。幅は13mmから100mmまでの6種類とバリエーションも多く、お客の細かな要望に応える。「中国製のガラステープもありますが、お客さまが求める基準に足りないことも多いようです。モーターや変圧器など、デリケートな場面で使うことが多く、トラブルが起きて責任の所在がはっきりしなかったり、海外メーカーでは対応が遅かったりと課題は残ります。また、日本製はのり剤にでんぷんを使っていますが、中国製はプラスチック系なので、違いにこだわるお客さんもいます。ニッチな業界ではありますが、日本製ならではの品質の良さを維持し、ニーズがある限り続けていきたいですね」



特殊繊維の製織や燃糸・加工をはじめ 食品の輸入販売など、多角化を目指す

東陽機業ではガラステープの他に、発電所からの高電圧の電力ケーブルに巻くレーヨン系テープに金属を織り込んだ特殊テープなども生産している。内山社長になってからは、医療分野への展開も実現している。「ガラス繊維よりも耐熱や絶縁に優れた新しい糸が開発されたら状況は一変しますから、常に先を見すえ、かじ取りする必要があります」。丸九内山燃糸合資会社ではリング式燃糸機を操り、外部から燃糸の仕事を受けている。燃糸業が盛んだった北陸や東北で廃業が続き、ここ2、3年は問い合わせが増えていたそう。また、7年ほど前に長男が入社。経営の多角化として、ポルトガルからオリーブオイルやハンドメイドのお皿などを輸入販売する事業を展開。かつて養蚕に使っていた蔵はショールームやイベントスペースとしても活用している。「70歳を越える職人さんをはじめ、15人ほどの小さな会社ですが、技術を継承し、ここまで事業を続けてこられました。社会環境が大きく変わる時代にあっても、自社でしかできないことを今後も取り組んでいきたいと思います」。絶えず変化し続けてきた120年の歴史は、この先も形を変え未来につながっていく。

- 120年間、糸偏の仕事に携わり続ける老舗織物メーカー。
- ガラス繊維に特化し、シャトル織機で織るガラステープは
- 大型モーターや大型客船、土木工事の腐食材などで活用。
- 金属折り込み特殊テープの生産やガラス繊維エアー加工も行う。
- 撚糸会社を持ち、原糸から最終製品までの一貫生産も可能。



OFFICE DATA

- 〔代表者〕 代表取締役 内山悦二
- 〔創業〕 1920年頃 [設立] 1950年4月1日
- 〔資本金〕 1,000万円
- 〔従業員〕 15人
- 〔住所〕 〒431-0441 湖西市吉美1215-1
- 〔TEL〕 053-576-0864 [FAX] 053-576-5505
- 〔INFO〕 08:00～17:00 休 土・日・夏季・年末年始・GW
- 〔MAIL〕 info@toyokigyo.co.jp
- 〔HP〕 http://www.toyokigyo.co.jp
- 問い合わせ担当者：内山悦二

国際結婚した娘さんや、語学が堪能な長男の奥さまが、英語での問合せに対応。自宅のお庭には、娘婿がDIYした木製ブランコが素敵。

事業内容 明治末期の製糸(絹)事業から始まった糸偏産業に長く携わってきた歴史を持つ。近年では移転後の跡地を利用したマンション賃貸事業や海外からの食品物の輸入販売も一部手掛けて、多角化を図っている

製造品目 ガラステープ、特殊テープ、撚糸、その他加工

製造品用途 産業資材用途製品

取扱素材 テープ: ガラスヤーン / 撚糸: アクリル、ポリプロピレン、ポリエステル、ガラスヤーン、新素材、ナイロン

設 備		
シャトル織機	加工が厄介なガラス繊維に向くよう改良している	45台
ニードル織機	短繊維の毛羽対策も加えて、長尺品にも対応	7台
バルキー加工機	ガラス繊維にバルキー(エアー)加工をする	1台
ワインダー	原糸の小分けや残糸の整理に使用	2台
リング式撚糸機	ガラス繊維を始め各種の糸に対応。糸に対する負荷が他の方式の撚糸機より優れている	8台
その他準備機	整経機や緯糸巻き機等、製織準備に必要な機械	

決済方法 銀行振込み、手形(月末締め翌月10日払い)

繁忙期 特になし

その他 英語可・見学可



東陽機業は経営の多角化の一つとして、ポルトガルの食品や雑貨などを輸入販売する「ポルト・ド・ポルト」を運営しています。クリエイティブなアーティスト&シェフで作上げたポルトガルの商品や、目で楽しみ、舌で味わい、ゆっくりと時間をかけて楽しむための美味しいモノを厳選。皆さまを「日常の疲れを癒やす食卓の旅」へご案内する商品は、NHKでも取り上げられました。ポルトガルが贈る「日常の非日常」をテーマにしたガストロノミーの世界をお楽しみください。

<公式HP> <https://portodoporto.com>
<Instagram> @porto_do_porto





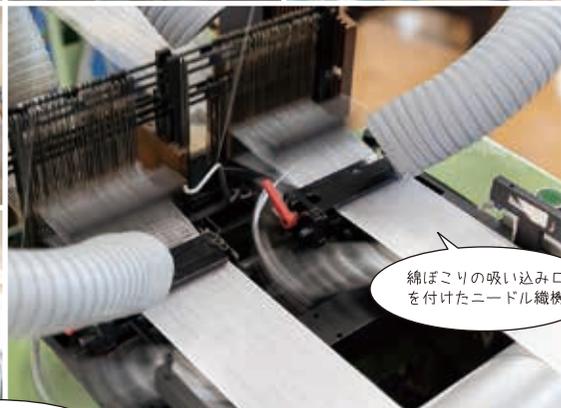
絶縁性能・耐熱性が高い
ガラス繊維系



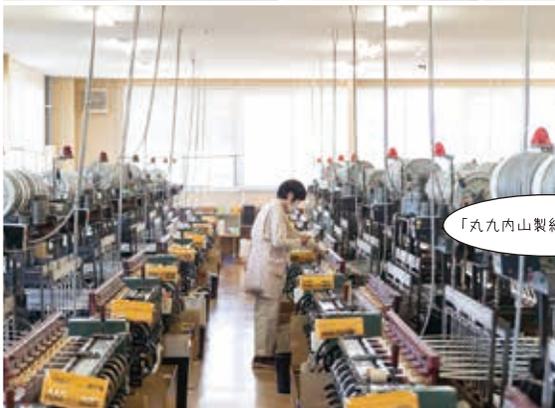
徹底した温湿度管理



高圧のエアで厚みを持たせるバルキー加工



綿ぼこりの吸い込み口を付けたニードル織機



「丸九内山製糸場」の名残



ポルトガル国旗

TOYO KIGYO

RECOMMENDED

ガラステープ

金額目安: 350円~2,000円/30m

最小ロット: 新規300~400巻/サイズ

納期目安: 即納または約1ヶ月

厚さと幅の組み合わせで現在は約30種類程度の在庫。その他、新規のサイズにも対応。



撚糸加工

金額目安: 100円~500円程度/kg工賃

最小ロット: 原糸1本からでも対応可能

納期目安: 要打ち合わせ

どんな糸にも対応は一応可能。合糸本数もかなりの本数まで可能。



素敵なお庭



【事業者紹介】

11

COMPANY
PROFILE

桃印の細幅織物

新興細巾織物株式会社

(上) 二次加工にも対応 / (下) オリジナル商品「PEACH BRAND」

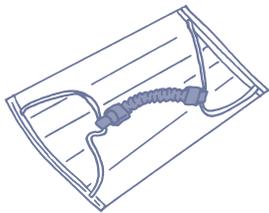


80余年の老舗細幅織物メーカー 都心の営業拠点でニーズをくみ取る

天竜川のほど近く、田んぼが広がるのどかな場所でひときわ目立つ三角屋根が新興細巾織物だ。創業は、1938(昭和13)年10月。しかしそれ以前から、現社長の曾祖母が個人で産着のひもなどの細幅織物を織っていたというから、歴史は相当長い。1948(昭和23)年には、東京都中央区に販売拠点として営業所を開設。2年後の1950(昭和25)年には、大阪市にも営業所を開設した。各拠点には5~6名の営業が配属され、工場とオンラインでつなぎ、クライアントの要望にスピーディに対応している。

製品はポリプロピレン、ポリエステル、ナイロン、アクリル、絹などを素材に、つり上げベルトや安全ベルトなどの資材系、襟芯(えりしん)、ネームといったアパレル系など、幅広いジャンルのものを手がけている。ただ織るだけではなく、プリント染色や樹脂コーティング、縫製、刺しゅうといった二次加工にも対応。10kN(キロニュートン=約1トン)もの重さに耐えられる縫製など、加工することで商品の付加価値を高めている。さらに、ベルトにバックルを取り付けるなど、最終仕上げまで同社で一貫して行うことで納期の短縮やコストを抑えている。柔軟な対応やレスポンスの良さが評判を呼び、取引先は200社を超えるという。

原系メーカーと原料から開発した「ダンライン」という糸は、粉末や粒状の荷物を保管、運搬するフレキシブルコンテナバッグのベルト部分に採用された。従来の材質よりも軽く、ひっぱり強度を高めた素材として特許を取得。他にも、伸び縮みする立体構造の織り方も特許を持ち、マスクのゴムを後頭部で止めるマスクバンドとして製品化されている。



桃印のファクトリーブランドが 細幅織物の魅力を伝えていく

新興細巾織物では企業向け製品だけでなく、近年では消費者に広く認知してもらうための製品作りにも力を入れている。「バッグの肩掛けひもといった分かりやすい部分だけでなく、マットレスの縁取りテープ、エプロンの首ひもなど、細幅織物は思いもしない場所で使われ、私たちの生活になくてはならない存在なんです」と細幅織物への

思いを語る代表取締役の小杉和男さん。「一方で、海外製の安価な細幅織物(ベルトやテープ、リボンなど)におされ、日本の細幅織物メーカーが厳しい状況に置かれているのも事実です。そんな状況下で会社が生き残っていくためには、特殊なものを生産したり、オリジナル商品を作ったりする必要があります。そのためにも、細幅織物の知名度をもっとあげていかないとはいけません」と息子である品質保証グループのグループ長、小杉剛央さんが続けます。

同社では3、4年ほど前から、「PEACH BRAND(ピーチブランド)」というファクトリーブランドを立ち上げ、若者向けにベルトなどの製品販売を始めた。ブランド名は創業者であり、現社長の祖母にあたる小杉ももえさんの名前からいただいた。当時から技術力と品質には定評があり、お客さまから喜ばれていたというエピソードにあやかった。桃のシルエットがかわいらしいロゴマークは、当時のものをそのまま使用している。ベルトのデザインや素材はもちろん、糸の染色から最終仕上げ、梱包まで、全工程を日本国内で行うなど、品質と安全性にこだわっている。商品はAmazonなどのECサイトをはじめ、月に2度ほど秋葉原にある「2k540 AKI-OKA ARTISAN」(JR高架下の商業施設)に出店し、より消費者に近い場所で販売するとともに、市場のトレンドを製品に取り入れている。



お客さまの言葉が何よりの喜び 熱い思いを胸に未来へ歩み続ける

自社ブランドを立ち上げたことで、会社としての知名度もアップした。また、商品開発で得た経験や知識を企業向けの織物製造へ転用したり、大手メーカーから問い合わせがあったりと、相乗効果も生まれている。「これまで企業向け製品は最終的に何に使われるか分からないものも少なくありませんでした。一方で、自分たちの手がけた素材がベルトなどのカタチになり、さらに購入されたお客さまから感謝の言葉を直接いただけることで、従業員のモチベーションは格段に上がりました」と顔がほころぶ小杉社長。最後に今後の展望を尋ねた。「創業から80余年。これまで培った技術を他分野へ展開するとともに、完成品まですべて社内で完結できるものづくりを進めていきたいですね」。同社の挑戦はまだまだ終わらない。

新興細巾織物株式会社

しんこうほそはばおりものかぶしがいいしゃ

1938(昭和13)年創業の、歴史ある老舗細幅織物メーカー。

東京と大阪に営業所があり、企画や織物組織の商談も可能。

ISO9001認証を取得し、糸の手配から、織り、加工までを徹底管理。

糸の染色をはじめ、職人が一つひとつ丁寧に仕上げた

自社ブランド商品を通じ、細幅織物の魅力を多くの人に伝える。

● **会社や仕事の好きどころ**

ユーザーの
喜んでいただける声、笑顔。
また従業員の
仕事をやり遂げた時の
達成感の弾む声
笑顔が大変良い。



OFFICE DATA

【代表者】 代表取締役 小杉和男

【創業】 1938年3月10日 【設立】 1948年4月1日

【資本金】 1,000万円

【従業員】 22人

【住所】 〒434-0022 浜松市浜北区新堀201

【TEL】 053-586-3125 【FAX】 053-586-4734

【INFO】 09:00～18:00 休 土・日・祝・夏季・年末年始

【MAIL】 tape_sinko_777@wind.ocn.ne.jp

【HP】 <https://www.shinko-hosohaba.jp>

● 問い合わせ担当者：小杉剛央

社会人経験を積み家業を継いだ3代目の剛央さん。ひいおばあさまの思いを受け継ぎ、立ち上げたのが「ピーチブランド」。

事業内容 主高品質なベルトやラッピング資材などの製品をはじめ縫製や刺しゅう、製品仕上げといった二次加工にも対応

製造品目 テープ、リボン、コンテナベルト、安全ベルト

製造品用途 車関係、安全ベルト、工業資材、鞆、ラッピングベルト

取扱素材 綿、混紡、アクリル、ポリプロピレン、ポリエステル、新素材、人絹、ナイロン

設備		
ニードル織機		19台
カット機	織ったものを切断	3台
工業ミシン		2台

決済方法 銀行振込み、現金(月末締め翌月20日払い)

繁忙期 特になし

その他 採用募集中

PEACHBRAND



Since 1938



HP



Instagram



SHOP

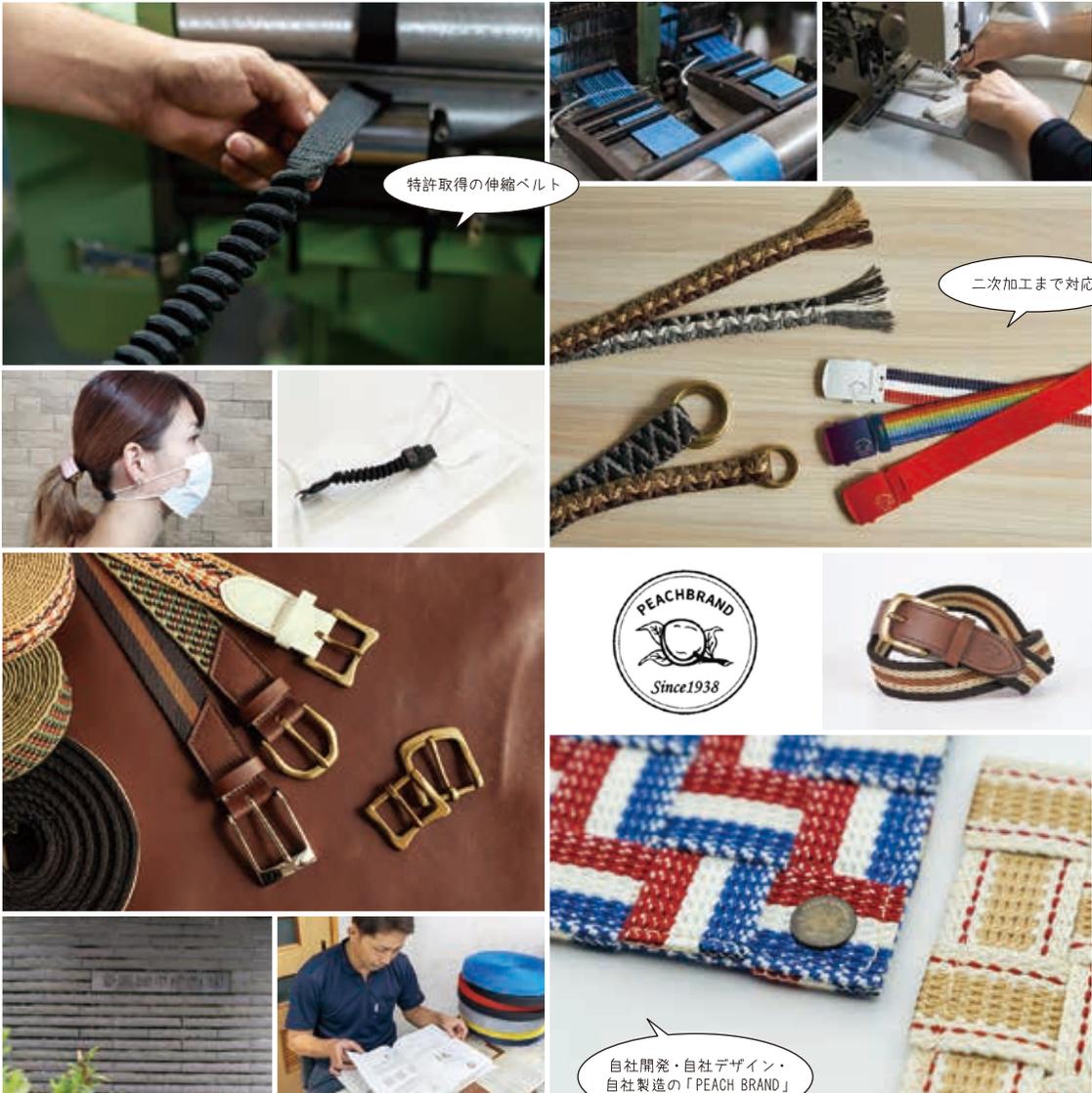


購入されたお客様の声

ご購入されたお客様から嬉しい声をいただきました!

- ・とてもかっこよく、日本製として恥ずかしくない品物です。
- ・質感が好きです。とても使いやすいです。
- ・今ではなかなか見つからないベルトがありました。大変嬉しいです。
- ・息子の嫁さんにプレゼント。大変喜んでくれました。
- ・この時期に購入してよかった。マスクバンド初めて購入しましたが、初めから当たりを引いた感じです。





特許取得の伸縮ベルト

二次加工まで対応

自社開発・自社デザイン・
自社製造の「PEACH BRAND」

RECOMMENDED

ダンラインベルト

天然硬質繊維に類似した糸を用いているため引張強度が高く、伸度が少なく、耐薬品性に優れたベルトです。



伸縮ベルト

特許取得済み設計を利用することで、伸縮率、最大寸法、引張強度などをコントロールした様々なベルト商品が製造可能です。



ナイロンベルト

ナイロン糸を用いているため引張強力、伸度、耐光性に優れたベルトです。後染が可能のため、小ロット染の対応が可能です。



静岡県繊維資材工業組合名簿（全45社）

会社名	TEL	FAX	住所
浜松テープ(株)	053-452-1177	053-453-5598	〒430-0943 浜松市中区北田町 139-25
東陽機業(株)	053-576-0864	053-576-5505	〒431-0441 湖西市吉美 1215-1
(株)カワイ	053-463-0798	053-463-0786	〒430-0919 浜松市中区野口町 552
川口細巾織物(株)	053-461-1401	053-461-5937	〒430-0912 浜松市中区茄子町 446
名倉テープ	053-526-7588	053-526-7588	〒431-1407 浜松市北区三ヶ日町大谷 618
丸啓細巾工業(有)	053-461-9602	053-464-7618	〒430-0803 浜松市東区植松町 1471-11
(有)足田テープ	053-436-1917	053-438-0366	〒433-8103 浜松市北区豊岡町 14-8
笠原細巾織物(株)	053-461-5027	053-461-5025	〒430-0807 浜松市中区佐藤 2-28-28
高橋細巾織物(株)	053-447-0265	053-447-9010	〒432-8052 浜松市南区東若林町 1752-9
新日本繊維機器販売(株)	053-447-0376	053-448-5987	〒432-8052 浜松市南区東若林町 634
(株)白井繊維工業社	053-425-3449	053-425-4356	〒430-0814 浜松市南区恩地町 450
(有)大瀬テープ工業所	053-421-0516	053-421-0677	〒435-0013 浜松市東区天龍川町 202
新村細巾織物	053-461-5929	053-461-6252	〒435-0014 浜松市東区大蒲町 106-2
(株)森工場	053-461-3305	053-465-4834	〒435-0016 浜松市東区和田町 473-2
(株)第一天龍	053-421-0121	053-421-2095	〒435-0018 浜松市東区葉新町 131
(有)浜名テープ商会	053-421-0257	053-421-0719	〒435-0013 浜松市東区天龍川町 987-1
安立細巾織物	053-424-7738	053-424-7738	〒434-0041 浜松市浜北区平口 2748
浅倉繊維工業(株)	053-434-0215	053-433-1155	〒431-3113 浜松市東区大瀬町 2716
(株)イクマ	053-434-0356	053-433-7360	〒431-3113 浜松市東区大瀬町 1105
平織産業(株)	053-587-7117	053-587-6611	〒434-0041 浜松市浜北区平口 1558
(有)マルナカ・テックス	053-587-0534	053-587-0534	〒434-0023 浜松市浜北区高園 273
新興細巾織物(株)	053-586-3125	053-586-4734	〒434-0022 浜松市浜北区新堀 201
浜興(株)	053-434-1419	053-434-6976	〒431-3101 浜松市東区豊町 2837
大東テープ工業(株)	053-434-1831	053-434-1832	〒431-3107 浜松市東区笠井町 382-4
金子テープ(株)	053-586-4421	053-587-9344	〒434-0025 浜松市浜北区善地 1781
(有)鈴謙	053-433-5411	053-433-3524	〒431-3104 浜松市東区貴平町 72
(有)井柳細巾織物	0538-66-3300	0538-66-5345	〒438-0231 磐田市豊岡 1586-4
(有)伊藤テープ織物工業	0538-66-2329	0538-66-6612	〒438-0211 磐田市東平松 98-5
(有)太田テープ	0537-48-3615	0537-48-3671	〒437-1303 掛川市沖之須 1949
大石テープ工業(株)	0548-32-0161	0548-32-6811	〒421-0301 榛原郡吉田町住吉 1297-2
丸忠細巾織物工場	0548-32-1562	0548-32-8011	〒421-0301 榛原郡吉田町住吉 2466
鈴木テープ	0548-22-2827	0548-22-2827	〒421-0421 牧之原市細江 2281
本橋テープ(株)	0548-32-2567	0548-32-2735	〒421-0301 榛原郡吉田町住吉 3216-5
(有)福世テープ	0548-32-3412	0548-32-2423	〒421-0304 榛原郡吉田町神戸 2755-1
サカイ産業(株)	0547-35-2727	0547-35-0015	〒427-8512 島田市細島 1349-1
(有)中川製紐工場	055-978-2029	055-978-8782	〒419-0107 田方郡函南町平井 1746
こるどん(株)	0545-38-2311	0545-38-0100	〒417-0821 富士市神谷 819
(株)白都商店	053-463-3101	053-465-6579	〒430-0919 浜松市中区野口町 255
(有)相澤織物加工場	053-471-6847	053-471-6875	〒430-0903 浜松市中区助信町 41-16
柳沢テープ加工(株)	053-464-3175	053-461-5905	〒430-0911 浜松市中区新津町 549
(有)市川整染工場	053-461-7512	053-461-8373	〒430-0901 浜松市中区曳馬 4-10-14
三陽(株)	0548-52-0570	0548-52-2235	〒421-0523 牧之原市波津 1307
山本染色(株)	053-461-6610	053-465-6463	〒430-0913 浜松市中区船越町 19-2
(株)タオカ	053-433-2131	053-433-1880	〒431-3113 浜松市東区大瀬町 2272
長谷川工場	0548-32-5811	0548-32-7493	〒421-0301 榛原郡吉田町住吉 4187



<発行>

遠州産地振興協議会
 (事務局:浜松市産業部産業振興課)

<協力>

- ・静岡県繊維資材工業組合
- ・一般社団法人静岡県繊維協会
- ・静岡県工業技術研究所
 浜松工業技術支援センター

STAFF

“シリーズ3冊目、繊維の謎が更に深まる!”
 クリエイティブディレクション
 三井いくみ(株式会社 mocha-chai)

“「幅は細いが、幅広い」世界に驚き”
 デザイン・イラスト
 塚本千栄(千輪デザイン)

“いつでも搜しているよ、どっかに細幅を”
 取材・編集・撮影
 大杉晃弘(写真と、企み)

“マニアックに細幅織物を発信”
 enshu.narrow(遠州なろう会)
 Instagram (@enshu.narrow)

<印刷・製本>

東海電子印刷株式会社

遠州さんち 一細幅のことう
 2021年3月発行

本誌に掲載されている記事、図版、
 写真等の無断掲載、複製、転載を禁じます。

遠州
ザレキ

ENSHU SANCHI

— 編輯のこと —